

中国大学生 「走近日企・感受日本」 訪日団第 23 回訪日報告書

目次

報告書の刊行にあたって	1
中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」寄付金申込社（者）一覧	2
2018 年度中国日本商会役員名簿	3
2018 年度社会貢献委員会委員名簿	5
2018 年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿	6
関湧団長挨拶	7
主催、共催団体の概要	8
第 23 回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団 団員名簿	9
第 23 回訪日ホームステイ受け入れリスト	10
第 23 回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程	11
第 23 回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト	12
< 訪日記録 >	
日本航空整備工場 (11/27) / 担当：北京科技大学	15
Panasonic Design Kyoto (11/28) / 担当：北京大学	17
大阪大学 (11/28) / 担当：北京科技大学	19
ワコール (11/29) / 担当：北京外国語大学	21
JA 全農 (11/30) / 担当：中国農業大学	23
伊藤忠商事 (11/30) / 担当：北京師範大学	25
三菱 UFJ 銀行 (12/3) / 担当：北京師範大学	27
日比谷松本楼 (12/3) / 担当：北京外国語大学	29
中国大使館 (12/3) / 担当：北京林業大学	31
東京大学 (12/3) / 担当：北京大学	33
ホテルニューオータニ（エコセンター）(12/4) / 担当：中国農業大学	35
学生たちの感想文から	37
学生たちの観た日本	52
学生たちの撮った写真	69
第 23 回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日活動メディア報道リスト（中国語のみ）	1

第 23 回中国大学生 「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本書は、中国日本商会が実施する「走近日企・感受日本」事業の第 23 回訪日団の報告書です。

本事業は、当会が会員からの寄付金を原資として、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、2007 年から年に 2 回実施しており、今回までに 33 大学 711 名の学生に参加頂きました。

本年は日中平和友好条約締結 40 周年であり、本事業もその記念事業の一つとしての認定を受けて実施されました。次代の中国を担う若者に日本の実像に触れてもらう機会を提供する本事業は、日中両国民の相互理解の増進に大きく貢献しているものと自負しております。

第 23 回訪日団は、2018 年 11 月 27 日から 12 月 4 日までの 8 日間、6 大学から選抜した 30 名で編成され、各訪問先において貴重な交流と体験をし、無事に終了いたしました。

このたびの訪日では、京都、神奈川、東京で会員企業 7 社を訪問させていただいた他、大阪大学、東京大学における日本の大学生との交流、中国大使館訪問、京都の名勝や日比谷松本楼の視察、一泊二日の日本の家庭へのホームステイ体験など、多彩なプログラムを実施しました。ホームステイの受入れにご協力いただいた企業数は 15 社にのぼっております。

このように本事業は、寄付金のみならず中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。これまでに協力いただいた視察先は 63 機関、交流大学は 10 校、ホームステイのホストファミリーは 525 家族にのぼります。また、共催団体である中国日本友好協会に全面的なご協力を頂くとともに、一般財団法人日中経済協会、中国友好和平発展基金会と公益社団法人企業市民協議会（CBCC）に適切な寄付金の管理を行って頂いております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力を頂いているすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業は日中関係が厳しい環境にある時にも敢えて継続して参りました。本事業に参加した大学生たち、あるいは彼らが交流した日本の学生たちが、将来、日本との交流の懸け橋となり、さらに強固な日中交流関係の促進の為に貢献してくれる事を、我々、中国ビジネスに関わる企業としても心より期待しております。

中国日本商会としては、今後も、本事業を通じて次代の中国を担う若者の日本との交流と理解促進を図って参る所存でございますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中国日本商会 会長 平井康光

2018 年 12 月

中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」 寄付金申込社（者）一覧

【寄付金】600万円

1	アサヒグループホールディングス株式会社
2	伊藤忠商事株式会社 伊藤忠(中国)集团有限公司
3	新日鐵住金株式会社
4	住友商事(中国)有限公司
5	東芝(中国)有限公司
6	トヨタ自動車株式会社
7	丸紅(中国)有限公司
8	みずほ銀行(中国)有限公司
9	三井物産(中国)有限公司
10	三菱商事株式会社
11	三菱UFJ 銀行(中国)有限公司
12	三菱電機(中国)有限公司
13	日本航空株式会社
14	全日本空輸株式会社

【寄付金】250万円以上～600万円未満

1	キャノン(中国)有限公司
2	アルプス(中国)有限公司
3	住友化学投資(中国)有限公司
4	ソニー(中国)有限公司
5	中外製薬株式会社
6	テルモ(中国)投資有限公司
7	豊田通商株式会社、豊田通商(中国)有限公司
8	松下電器(中国)有限公司
9	三井化学株式会社
10	三井住友銀行(中国)有限公司
11	三菱化学控股管理(北京)有限公司

合計60社名

* 個人の方は寄付当時の所属(企業名)を記入しています。

【寄付金】100万円以上～250万円未満

1	旭化成株式会社
2	株式会社 I H I
3	岩谷(中国)有限公司
4	株式会社資生堂
5	JTB グループ(新紀元 /JTB)
6	JXTG エネルギー株式会社
7	双日(中国)有限公司
8	東京海上日動火災保険株式会社
9	野村ホールディングス株式会社
10	北京電通広告有限公司
11	三井住友海上火災保険(中国)有限公司 三井住友海上火災保険公司 駐中国総代表处
12	匿名希望

【寄付金】1万円以上～100万円未満

1	日本農林中央金庫有限公司
2	旭硝子(中国)投資有限公司
3	宝酒造株式会社
4	東レ株式会社
5	あいおいニッセイ同和損保
6	大和証券株式会社
7	凸版印刷株式会社
8	豊田汽車金融(中国)有限公司
9	日立租賃(中国)有限公司
10	高橋修三 (個人・長富宮飯店)
11	武田勝年 (個人・元三菱商事)
12	熊琳 (賛助会員)
13	株式会社ブリヂストン
14	米原佳彦 (個人・阪和商貿)
15	世達志不動産投資顧問(上海)有限公司
16	JA 全農
17	日中経済協会
18	今村浩 (個人・NTT DOCOMO China Co., Ltd)
19	コクヨ家具(中国)有限公司
20	ヤマハ発動機株式会社
21	稲葉雅人 (個人・NTTデータ(中国)投資)
22	茶山秀一、岩城拓 (個人・日本科学技術振興機構)
23	陳言 (賛助会員)

2018年度中国日本商会役員一覧

2018年12月19日現在

	商会役職	氏 名	会社名	役職
1	会長	平井 康光	三菱商事	執行役員 東アジア統括
2	副会長	上田 明裕	伊藤忠	常務執行役員 東アジア総代表
3	副会長	宇平 直史	NTTデータ	執行役員 中国総代表
4	副会長	小澤 秀樹	キヤノン	副社長執行役員、キヤノンアジア総代表、キヤノン中国 社長
5	副会長	高橋 望	新日鐵住金	執行役員 中国総代表 北京事務所長
6	副会長	古場 文博	住友商事	専務執行役員 東アジア総代表
7	副会長	伊藤 伸一	凸版印刷	北京事務所 首席代表
8	副会長	小林 一弘	トヨタ自動車	専務役員、トヨタ(中国)投資 董事長兼総経理
9	副会長	岩永 正嗣	日中経済協会	北京事務所 所長
10	副会長	米澤 章	日本航空	執行役員 中国地区総代表 北京支店長
11	副会長	堂ノ上 武夫	日本貿易振興機構	北京事務所 所長
12	副会長	横尾 定顕	パナソニックチャイナ	役員 中国・北東アジア地域総代表
13	副会長	平澤 順	丸紅	執行役員 中国総代表
14	副会長	岡 豊樹	みずほ銀行	執行役員 中国総代表
15	副会長	小野 元生	三井物産	専務執行役員 中国総代表
16	副会長	垣内 隆	三井住友銀行(中国)	北京支店 支店長
17	副会長	小原 正達	三菱UFJ銀行(中国)	副董事長
18	理事	亀倉 隆志	岩谷産業	常務執行役員 中国総代表
19	理事	西村 康	双日	常務執行役員 中国総代表
20	理事	近藤 隆弘	豊田通商	専務執行役員、東アジア地域統括兼総代表
21	理事	松原 圭司	阪和興業	執行役員 中国総代表
22	理事	陶 履徳	日鉄住金物産	北京事務所 所長
23	理事	上田 敏裕	旭硝子(中国)投資	董事長 総経理
24	理事	青山 傑	コスモ石油	北京事務所 首席代表
25	理事	市川 正人	クボタ	北京事務所 首席代表
26	理事	池松 克紀	JFEエンジニアリング(北京)	総経理
27	理事	西村 伸吾	JXTGエネルギー	執行役員 中国総代表
28	理事	明石 宏二郎	東京電力	北京代表処 首席代表
29	理事	青木 馨	三菱重工業	執行役員 中国総代表
30	理事	今井 正志	アルプス(中国)	総経理
31	理事	堂園 憲治	NTTコミュニケーションズ(中国)	北京分公司 総経理
32	理事	本間 雅之	NTT DOCOMO China通信技術	董事長
33	理事	後藤 雄次	京瓷(中国)商貿	董事・総経理
34	理事	川下 竜一郎	北京凱迪迪愛通信技術	董事長
35	理事	高橋 洋	ソニー(中国)	董事長&総裁

36	理事	須毛原 勲	東芝	中国総代表
37	理事	小久保 憲一	日立製作所	執行役専務 中国総代表
38	理事	高澤 信哉	富士通(中国)	董事長兼総経理
39	理事	小原 弘嗣	マルチメディア振興センター	北京代表処 首席代表
40	理事	富澤 克行	三菱電機	執行役員 中国総代表
41	理事	棕野 貴司	旭化成	執行役員 中国総代表
42	理事	山洞 正一	アサヒグループホールディングス	中国総代表
43	理事	栗山 博通	資生堂(中国)投資	技術本部 本部長
44	理事	安藤 洋	住友化学投資(中国)	総経理
45	理事	陳 偉東	日健中外科技(北京)	総経理
46	理事	柴崎 崇紀	テルモ	上席執行役員 中国総代表
47	理事	寺師 啓	東レ	北京事務所 所長
48	理事	松崎 宏	三井化学	理事 中国総代表
49	理事	白上 博能	三菱化学控股管理(北京)	董事長
50	理事	菅井 信明	東京海上日動火災保険(中国)	北京分公司 総監
51	理事	東 善明	日本銀行	北京事務所 首席代表
52	理事	北村 充隆	野村證券	北京・上海駐在員事務所統括責任者
53	理事	林 純如	三菱UFJ信託銀行	北京代表処 首席代表
54	理事	夏目 龍	明治安田生命保険	北京代表処 首席代表
55	理事	三宅 英夫	全日本空輸	上席執行役員 中国統括室長兼北京・天津支店長
56	理事	杉山 龍雄	日本通運	常務執行役員 東アジア地域統括
57	理事	高泉 宏康	日本郵船	中国総代表
58	理事	今井 誠	イトーヨーカ堂(中国)投資	董事長
59	理事	中井 大祐	交通公社新紀元国際旅行社	董事 総経理
60	理事	小金井 英生	スターツ北京	華北地区統括 総経理
61	理事	谷口 利英	全日空国際旅行社	総経理
62	理事	高橋 修三	長富宮中心	常務副総経理 ホテル総支配人
63	理事	馬場 章正	北京電通広告	董事 総経理
64	理事	益田 太平	北京首開野村不動産管理	董事 総経理
65	理事	浅田 隆司	日中経済貿易センター	代表理事理事長
66	理事	田中 雅教	日本国際貿易促進協会	北京事務所 所長・首席代表
67	理事	厚谷 禎一	KPMG	パートナー
68	理事	塚本 武	NEC	中国総代表 総裁
69	理事	喜多羅 和宏	国誉家具(中国)	北京分公司 総経理
70	理事	篠原 康人	三井住友海上火災保険(中国)	北京分公司 総経理
71	理事	越智 博通	北京陸愛科技	董事長
72	理事	山本 努	北京丘比食品	総経理
73	監事	三浦 智志	監査法人トーマツ	パートナー
74	監事	越智 幹文	国際協力銀行	首席代表

2018年度社会貢献委員会委員名簿

2018年12月現在

	氏 名	(会社名・役職)
社会貢献委員長	古場 文博	(住友商事 専務執行役員 東アジア総代表)
委員	上田 明裕	(伊藤忠 常務執行役員 東アジア総代表)
委員	宇平 直史	(NTTデータ 執行役員 中国総代表)
委員	小澤 秀樹	(キヤノン 副社長執行役員、キヤノンアジア総代表、キヤノン中国 社長)
委員	高橋 望	(新日鐵住金 執行役員 中国総代表 北京事務所長)
委員	伊藤 伸一	(凸版印刷 北京事務所 首席代表)
委員	小林 一弘	(トヨタ自動車 専務役員、トヨタ自動車(中国)投資 董事長)
委員	岩永 正嗣	(日中経済協会 北京事務所 所長)
委員	米澤 章	(日本航空 執行役員 中国地区総代表 北京支店長)
委員	堂ノ上 武夫	(日本貿易振興機構 北京事務所 所長)
委員	横尾 定顕	(パナソニックチャイナ 役員 中国・北東アジア地域総代表)
委員	平澤 順	(丸紅 執行役員 中国総代表)
委員	岡 豊樹	(みずほ銀行 執行役員 中国総代表)
委員	小野 元生	(三井物産 専務執行役員 中国総代表)
委員	垣内 隆	(三井住友銀行(中国) 北京支店 支店長)
委員	平井 康光	(三菱商事 執行役員 東アジア統括)
委員	小原 正達	(三菱UFJ銀行(中国) 副董事長)
委員	三宅 英夫	(全日本空輸 上席執行役員 中国総代表 北京・天津支店長)
委員	中井 大祐	(交通公社新紀元国際旅行社 董事 総経理)

2018年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿

2018年12月現在

会社名	氏名	役職
【社会貢献委員長】	古場 文博	住友商事 専務執行役員 東アジア総代表
【WG座長】	岩永 正嗣	日中経済協会 所長
アサヒグループホールディングス	飯塚 喜美子	行政局主任
伊藤忠(中国)集团有限公司	向 萌々子	東アジア経営企画グループ 中国人事・総務部 部長助理
キヤノン(中国)有限公司	福井 穂高	コーポレートコミュニケーション戦略本部副総経理
新日鐵住金諮詢(北京)有限公司	濱崎 由基	部長
交通公社新紀元国際旅行社有限公司	石毛 二郎	董事 総経理
住友商事(中国)有限公司	中原 誠	人事部 部長
	米 健	中国総代表助理
全日本空輸株式会社	片桐 稜太	銷售部
東芝(中国)有限公司	薬丸 法之	副総裁
トヨタ自動車(中国)投資有限公司	栗田 弘毅	渉外部主査
日中経済協会	澤津 直也	副所長
日本航空株式会社	永島 大地	営業担当
日本貿易振興機構 北京事務所	日向 裕弥	副所長
日立(中国)有限公司	岩見 健太郎	副総経理
丸紅(中国)有限公司	松園 大	中国総代表助理
みずほ銀行(中国)有限公司 北京支店	芦原 巧	営業1課
三井物産(中国)有限公司	古川 健太郎	戦略企画部 総監
三菱商事(中国)商業有限公司	李 征	企画業務部 副部長
三菱電機(中国)有限公司	王 蕾	経営企画室 主管
三菱UFJ銀行(中国) 北京支店	張 婷	企画部 北京本部
【オブザーバー】	菊池 信太郎	日本大使館 広報文化センター 一等書記官
【オブザーバー】	田中 麻美子	日本大使館 經濟部 一等書記官
【訪日中のアテンド等】	横山 勝明	日中経済協会 (東京) 参与

第23回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表团報告書 团长挨拶

2018年12月4日、第23回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日団一行は日本への8日間の訪問を無事に終えました。中国日本商会、日中経済協会そして訪問先の関係者の多大なるご支援ならびにご協力の下、訪日団は訪れた先々で温かいおもてなしと熱烈な歓迎を受けました。ここに訪日団を代表して、中国日本商会、日中経済協会ならびに日本の皆様のおもてなしに心より感謝申し上げます。

今回の代表团は北京大学、北京師範大学、北京外国語大学、北京科技大学、中国農業大学及び北京林業大学の30名の優秀な学生により構成されています。日本滞在期間中、代表团はJAL整備工場、Panasonic Design Kyoto、ワコール、JA全農、伊藤忠商事、三菱UFJ銀行、ホテルニューオータニといった有名企業の見学の他、大阪大学や東京大学の学生との友好交流、日比谷松本楼での梅屋庄吉氏の曾孫である小坂文乃女史による孫中山、梅屋庄吉両氏の一生の友情についてのスピーチ、特に中国日本商会各会員企業の従業員宅でのホームステイでは、学生らは日本の社会と直に触れ合い、また日本の伝統文化や日本の人々の普段の生活を体験することができたなど、充実したスケジュールの下で沢山の収穫を得ることができました。ホームステイを終えお別れをする際そして最終日の歓送会では、多くの団員やホストファミリーの皆さんが名残惜しさから涙する様子を目にするなど、とても感動的でした。日本訪問を通じて、学生らは日本企業の進んだ技術、「人間本位」の経営理念及び社会貢献の精神を深く学ぶと同時に、世界的視野を広げ、見識を深め、日中友好への信念を確固たるものとし、日本の青年との相互理解や友情を深めることができました。学生らは今回の日本訪問を通じて学んだことや日本の人々の中国の人々への友好感情をその他の学生や周りの家族友人に伝え、初心を忘れず、使命に背かず、実際の行動により積極的に日中友好事業に関わり、両国の民間における友好、特に両国の青年間交流に自分なりの貢献をしたいと述べていました。

2018年は日中平和友好条約締結40周年です。5月には李克強総理が日本を訪れ、10月末には安倍晋三首相が7年ぶりに中国を公式訪問し、中国日本友好協会及び中国人民対外友好協会が共催した日中平和友好条約締結40周年記念レセプションに出席、両国の指導者は翌2019年を「日中青少年交流推進年」とすることに同意いたしました。かつて日中関係は非常に厳しい時期を経験しましたが、日中両国政府及び見識者の努力を通じて両国関係は再び健全な発展の軌道に乗ることができました。国の交わりは民の親しきにあり、民の親しきは心のつながりにあります。青年は国の未来そして希望であり、両国の青年同士の友好交流は一貫して日中友好交流における重要な構成要素でした。正に日中両国の各時代の青年の友好交流が日中両国の友好関係を二千年にわたり継続そして発展させてきたのです。今後日中両国の青年らが交流をさらに拡大し、友好を深め、両国友好の使者そして架け橋となることを心より願っております。中国日本友好協会としても、日本の各界の皆様と共にこれからも両国の青少年交流に力を注ぎ、日中両国の友好関係の発展及び長きにわたる友好のために新たなこれまで以上の貢献をしていく所存でございます。

最後に、今回の代表团の日本訪問に際して多大なご支援を頂いた中国日本商会、日中経済協会及び各関連企業そしてホストファミリーの皆様に、改めまして心より感謝申し上げます。

第23回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表团 团长
中国日本友好協会理事
関湧

主催、共催団体の概要

中国日本商会

在北京企業の円滑な事業活動を支援するとともに、日中間の経済交流の活発化を通じて、日中友好を促進することを目的として、1980年10月に設立された北京日本商工クラブを前身とする。中華人民共和国国務院令第36号「外国商会管理暫行規定」に基づき認可された外国人商工会議所の第1号として、1991年4月22日に設立された。

会員数は、2018年12月末日現在、市内法人会員569社、市外法人会員62社、個人会員13名、賛助会員12名の合計656社(名)を擁している。

中国日本友好協会

1963年に中華全国総工会、中国人民外交学会など19の民間団体によって発起設立された、中国における最も代表的な対日民間友好組織である。創立以来、周恩来総理の提唱の下で積極的に対日友好交流活動を展開し、1972年の中日国交正常化と1978年の中日平和友好条約の締結においては大きな貢献を果たした。政治、経済、文化、スポーツなどの各分野で対日友好交流事業を強力に展開し、健全で安定的な両国関係の推進に重要な役割を果たしている。

中国友好和平発展基金会

中国人民対外友好協会の下部組織として、1996年に設立された。各国との友好増進、国際協力の推進、世界平和、共同发展を主旨とし、世界平和と人類の進歩に貢献するため、中国と海外各国との友好事業を始め、文化、教育、医療衛生、環境保護、スポーツ、経済、貧困支援などの数多くの分野で社会的公益活動を行っている。

一般財団法人日中経済協会

経済産業省を始めとする日本政府及び日本経済団体連合会他経済界の支援の下に、日本と中国との経済交流促進のため、1972年に設立された。

第23回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団団員名簿

	姓名	性別	所属		専攻
団 長	関 湧	男	中日友好協会	理事	
団 員	謝霄鶴	女	北京大学	生命科学学院	生物科学
団 員	陳燕瓊	女	北京大学	情報科学技術学院	ソフトウェア工程
団 員	高 乾	男	北京大学	数学科学学院	数学・応用数学
団 員	李南鵠	女	北京大学	元培学院	データ科学・ビッグデータ技術
団 員	史喬心	女	北京大学	医学部公共衛生学院	予防医学
団 員	陳心如	女	北京師範大学	外国言語文学学院日文系	日本語
団 員	陳怡帆	女	北京師範大学	外国言語文学学院日文系	日本語
団 員	金 欣	女	北京師範大学	外国言語文学学院	日本語语言文学
団 員	陳 卓	男	北京師範大学	外国言語文学学院	日本語
団 員	龍炫彤	女	北京師範大学	外国言語文学学院日語系	日本語
団 員	周 戈	男	北京外国語大学	日語系	日本語
団 員	董 林	男	北京外国語大学	日語系	日本語语言文学
団 員	劉 娜	女	北京外国語大学	日語系	日本語
団 員	徐浩天	男	北京外国語大学	日語系	日本語语言文学
団 員	周 彩	女	北京外国語大学	日語系	日本語
団 員	康慧薇	女	中国農業大学	経済管理学院	電子商務
団 員	李雨濃	女	中国農業大学	水利・土木工程学院	農業建築・エネルギー工程
団 員	王 添	女	中国農業大学	理学院	数学・応用数学
団 員	林百欣	女	中国農業大学	植物保護学院	植物保護
団 員	王新宇	男	中国農業大学	工学院	車輛工程
団 員	趙紓羽	女	北京科技大学	コンピュータ・通信工程学院	通信工程
団 員	李逸軒	男	北京科技大学	自動化学院	自動化
団 員	劉伊迪	女	北京科技大学	材料科学・工程学院	材料化学
団 員	劉 哲	女	北京科技大学	冶金・生態工程学院	冶金工程
団 員	張凱集	女	北京科技大学	材料科学・工程	材料化学
団 員	楊騰紫	男	北京林業大学	外国語学院	日本語
団 員	劉禹辰	男	北京林業大学	外国語学院	日本語
団 員	冷和華	女	北京林業大学	外国語学院	日本語
団 員	靳 松	女	北京林業大学	外国語学院	日本語
団 員	王韻玉	女	北京林業大学	外国語学院	日本語
引 率	劉笑非	女	北京林業大学	外国語学院副院長	
事務局	劉夢妍	女	中日友好協会	都市経済交流部職員	
事務局	董丹丹	女	中日友好協会	友好交流部職員	

第23回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程

日次	日 付	日 程	宿 泊
1	11/27 (火)	8:35 北京首都空港発 【北京 8:35→羽田 12:55 JL20】 12:55 羽田空港着 13:45 羽田空港国際線ターミナルより貸切バスで移動 14:00～15:30 ●企業訪問① JAL 整備工場見学 15:30 貸切バスで国内線JALターミナルへ移動 16:30羽田→17:40伊丹 JAL127便 (国内線にて大阪へ移動) 17:40 大阪伊丹空港着 到着後、バスにて夕食場所へ 18:30～19:30 夕食 大阪 20:30 京都ホテル着	アリストンホテル京都十条 京都府京都市南区上鳥羽 勧進橋町23 TEL:075-681-6600
2	11/28 (水)	ホテル8:15発 9:15～12:15 ●企業訪問 ② Panasonic Design Kyoto (含む 昼食) 14:00～19:15 ◎大学交流 大阪大学 ① (含む懇親会) ホテル20:30着	アリストンホテル京都十条
3	11/29 (木)	ホテル8:15発 9:00～11:00 ●企業訪問 ③ ワコール 11:30～12:30 東福寺 (紅葉観賞) 13:00～14:00 昼食 京都新都ホテル 14:32京都→16:35小田原 ひかり524 (新幹線体験) 小田原駅より貸切バスにて旅館へ移動 17:30 箱根湯本温泉着 ★温泉体験 夕食:温泉旅館内にて和食会席料理	箱根湯本温泉 箱根天成園 神奈川県足柄下郡箱根町 湯本682 TEL:0460-83-8511
4	11/30 (金)	ホテル8:45発 9:45～11:30 ●企業訪問 ④JA全農 (平塚) 12:30～13:30 昼食 厚木 16:30～19:15 ●企業訪問 ⑤伊藤忠商事 (含む懇親会) ホテル20:00着	東京 ホテルニューオータニ 東京都千代田区紀尾井町 4-1 TEL:03-3265-1111
5	12/1 (土)	終日 ホームステイ	学生:ホームステイ 東京 引率者:ホテルニューオータニ
6	12/2 (日)	夕方までホームステイ 夕方 ホテル集合、東京自由行動	東京 ホテルニューオータニ
7	12/3 (月)	ホテル9:15発 9:30～11:00 ●企業訪問 ⑥三菱UFJ銀行 昼食: ★ソフト文化等視察 ①日比谷松本楼 14:00～15:30 ●中国大使館訪問 16:30～20:00 ◎東京大学 ② (含む懇親会) ホテル20:30着	東京 ホテルニューオータニ
8	12/4 (火)	9:30～11:00 ●企業訪問 ⑦ホテルニューオータニ エコ視察 12:00～14:00 歓送会 (ホテルニューオータニ) 14:00 ホテル発 羽田空港へ移動 15:00 羽田空港着 【羽田 17:15 → 北京 20:25 JL25】 20:25 北京首都空港着	

第23回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト

1. JAL整備工場

加藤智也	コーポレートブランド推進部	
	シチズンシップグループ	工場見学担当
江端千佳	同上	同上

2. Panasonic Design Kyoto (パナソニック アプライアンス社 デザインセンター)

臼井重雄		所長
三浦斉	デザイン推進部	部長
長谷川錦哉	デザイン統括部	主幹
高橋和也	新領域開発課	
イレインテイ	デザイン統括部 ストラテジー課	
増田友美	デザイン推進部 開発推進課 1係	係長
王暉	松下電器(中国)有限公司	事業助成センター所長
小林岳史	同上	特命担当

3. 大阪大学

小溝裕一	グローバルイニシアティブ・センター	東アジア拠点長(名誉教授)
有川友子	国際教育交流センター	センター長(教授)
坂野上淳	免疫学フロンティア研究センター企画室	特任准教授(常勤)
大倉永也	免疫学フロンティア研究センター	元特任教授(常勤)
Jun Huang	同上	特任研究員(常勤)
杉原文徳	同上	助教
末吉友基	同上	特任助教(常勤)
渡部祐司	免疫学フロンティア研究センター企画室	特任研究員(常勤)
橋弘治	国際部国際学生交流課	課長
加藤久武	国際部国際学生交流課学生交流企画係	係長
松林慶	同上	主任
内山夕貴子	同上	係員

*大阪大学の学生(院生を含む)16名の皆様

吉田浄	コーディネーター
-----	----------

4. ワコール

廣岡勝也	国際本部 事業管理部	部長
酒向孝佳	国際本部 営業部	部長(兼 営業一課長)
王楠	国際本部 国際営業部 営業一課	
中瀬原	総合企画室 広報・宣伝部 広報・宣伝課	

江口亜美 総合企画室 広報・宣伝部 広報・宣伝課

5. JA全農

佐藤謙一郎	耕種総合対策部 営農・技術センター 管理・講習課	主席技術主管
富永晃正	総合企画部 統括課	課長
池山貴	同上	
和泉沙織	耕種総合対策部 営農・技術センター 管理・講習課	

6. 伊藤忠商事

小関秀一		専務執行役員
香月俊哉		東アジア総代表補佐、東アジア経営企画グループ長
寺澤佳代	開発・調査部 海外室	エリアマネージャー
堀田幹長	同上	エリアマネージャー
上林若菜	同上	
董博	開発・調査部 調査情報室	

* 社内カンパニーから選抜された中国語人材30名、ホームステイ受け入れ1名の皆様

7. 三菱UFJ銀行

原義信	経営企画部 中国室	室長
関謙次	同上	次長
野口雄三	同上	副室長
武進	アジア総合管理部 アジア企画室 拠点管理グループ	調査役
王穎	法人・リテール企画部	調査役

8. 日比谷松本楼

小坂文乃	代表取締役社長	
吉本信義	営業本部	次長
千葉晃弘	宴会部	部長

9. 中国大使館

汪婉	大使夫人 友好交流部	参事官
律桂軍	国際及び地域部	公使参事官
付博	友好交流部	二等書記官

10. 東京大学

平野温郎	大学院法学政治学研究科 ビジネスロー・比較法政研究センター	教授
------	----------------------------------	----

長谷川修司 大学院理学系研究科物理学専攻 教授
＊東京大学の学生(院生を含む)15名の皆様

吉田 浄 コーディネーター

11. ホテルニューオータニ

山川剛	関西営業所	所長
平野力也	同上	グループリーダー
田島浩一	宿泊営業部 国内営業課	
	セールスコーディネーター	マネージャー
山田聡	料飲営業部 料飲営業一課	シニアセールスマネージャー
佐々木剛	料飲部 宴会課	総括マネージャー
三浦光昌	ファシリティマネジメント部	
	ファシリティマネジメント課	課長

初めての日本、多くの収穫

北京科技大学学生代表

見学日時：2018年11月27日（火）14:00-15:30

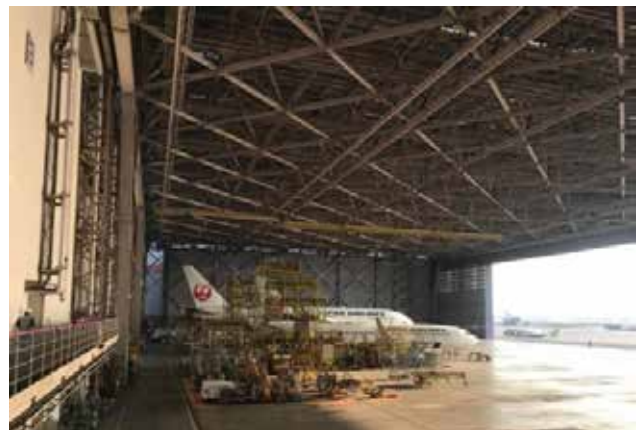
見学場所：JAL整備工場

見学概要

長旅の末、私たちは最初の訪問先である日本航空（JAL）を訪れた。まず初めに JAL のスタッフから同社の状況及び航空機のエンジンの原理等様々な内容についての紹介があった。ユニークな解説に分かりやすい PPT が加わり、私たちは楽しくリラックスした雰囲気の中、同社の歴史、企業理念、行動規範そして運行状況について理解を深めた。その中で私たちは羽田国際空港が当初国営の民間機用空港として 1931 年 8 月に建設され、日本最大の航空会社である JAL の航路がアジア各地に分布しており、また羽田空港の旅客輸送量が世界で 4 番目に多いことを知った。その他にはエンジンの 85%-90% の推力はエンジン最前面にあるファンブレードにより作られる気流で、燃焼室における爆発による爆風によって作られる推力はわずか 10-15% しか提供していないことについて知った。

解説終了後、私たちはスカイミュージアムを見学し、客室乗務員の制服の試着、模擬客室等の他、羽田空港の発展の歴史について理解を深めた。

最後に私たちは JAL 整備工場を訪れた。初めて間近で航空機を目の当たりにした私たちはとても興奮した。ここでは航空機の離着陸の様子も見学することができ、スタッフからはボーイング 737、767、777 そして 787 型を見分ける方法や航空機の各 부품の機能や役割についてのお話があった。その他私たちはさらに、航空機が 1 年半毎に 1 ヶ月半の期間をかけて大規模な点検修理を行うことを知った。また整備工場では、一見とても新しいが間もなく廃棄処分されるたくさんのシートを見かけた。スタッフのお話では、「シートは一定期間の使用の後、性能が下がり、乗客を確実に保護することができなくなるため、たとえ新しく見えても処分する必要がある。」とのことであった。これらの点を知った私たちは航空産業における業務の緻密さに感嘆すると同時に、ここまでしてこそ乗客一人ひとりの安全を保証することができるのだと思った。



なぜですか？

問：航空会社はどのように航空機の安全を守っているのか？

答：JAL の航空機は 1 年半毎に 1 ヶ月半の期間をかけて全面的な点検修理を行っている。客室内のシートはたとえ品質に問題がなくても 4-5 年毎に交換を行うことが多い。シートの衝撃吸収機能への要求が高いことから、不慮の事故を回避するために頻繁に交換をする必要がある。

問：航空機の燃料タンクは機首にあるのかそれとも機尾にあるのか？

答：いずれでもない。航空機の燃料タンクは主翼内にある。主翼後部の一部の部位は動かすことができ、主翼における揚力または抵抗の分布を制御することで、揚力の増加や航空機の姿勢変化といった目的を達成する。

問：ジェット機のエンジンは普通の航空機のエンジンと何が違うのか？

答：ジェットエンジンはまず流速の不変を利用する。空気の通路が小さくなる際に空気は圧縮され、空気内の酸素質量が増加し、燃焼室に入り圧縮空気の温度が引き上げられる。高温高压の気体はタービンに入り、タービンを回転させる。エンジンの 80% 以上の動力は還流の低速の気体がもたらし、高速の気体がもたらす動力はほんのわずかである。

問：航空機の遅延の主な原因は何か？

答：航空機は空中において渋滞することはない、遅延の主な原因は空港での離着陸の流量による航空管制、着陸の遅延または天候による遅延である。羽田空港は旅客輸送量が世界で 4 番目に多く、平均 3 分に 1 機の航空機が離着陸している。

問：ボーイング社とエアバス社の航空機はどのように見分けるのか？

答：航空機の翼端部には点滅する白色の信号灯（ストロボライト）があり、点滅の間隔が均等なのがボーイング社の航空機で、素早く 2 度点滅するのがエアバス社の航空機である。また、ボーイング社の航空機同士の見分けもしやすく、747 型には 4 つのエンジンがあり、額部分が二層で、一部が突出している。777 型は側面から見ると 3 つの車輪が見える、即ち 3 つの着陸装置で、787 型は 2 つの着陸装置があり正面部分が低くなっている。

問：航空機は空中においてどのように地上と連絡をとるのか？

答：空港の各管制席や航空交通管制部のセクターごとに特定の周波数が割り当てられ、空中の航空機からもたらされる情報を受信している。空港管制レーダーの範囲は高度 8km 以下で、半径 110km 以内である。

感想

日本を訪れる以前、私たちの日本への印象は日本のドラマやメディアによりもたらされ、私たちにとって日本は神秘的な存在であった。だが私たちは日本の美しさに憧れ、日本の文化を好むと同時に、過去の不幸な歴史についても忘れてはならない。私たちは前の世代の日本に対する印象の中で生きており、どのように自分と向き合ったら良いのか分からない。確かに歴史は忘れてはならず、私たちは心に刻み、そして危機意識を持つ必要がある。しかし今後いかに日本と共に発展し、いかに日中友好を促進するかという問題についてのたすきは、すでに私たち世代の手に委ねられている。今回の日本での交流は、日中関係を見つめ直し、平和的発展のために何ができるのかを自問する一つのきっかけとなった。

快適な業務環境と独特な設計理念

北京大学学生代表

見学日時：2018年11月28日（水） 9:15-12:15

見学場所：Panasonic Design Kyoto

見学概要

① 快適な業務環境

デザイナーからの紹介を通じ、私たちは建物全体の各フロアの機能の分配には特別な意味が含まれていることを知った。コーヒードリッパーからアイデアを得たオフィスビルの最上階はサンルームとガーデンになっており、デザイナーは様々な職業の人達とここで楽しい交流を通じて意見を交換し、その結果コーヒー粉のように最終的なデザインにおけるインスピレーションの源を獲得している。そこから下2階分のフロアは、デザイナーがインスピレーションを掘り下げ、デザインプランを定め、実現可能性を討論する会議室となっており、円卓のある会議室や開放的なリビングにあるようなソファやテーブル、窓の外を向いた個人用の背もたれの高いソファ、高解像度映像のテレビ会議室、さらには早速デザインプランを決定するために準備された「立ち会議」用会議室など様々なスペースがデザイナーの思考を広げ、交流を促進する様は、まるでコーヒー粉が熱湯に浸され発泡しているようである。さらにその下はデザインを実現する作業室と展示スペースとなっており、淹れ終えたコーヒーのようにそれらを味わうことができる。

よくよく考えると、私たちが就職先を選ぶ際、もし企業の業務環境が入念にデザインされていれば、快適で仕事に適しているだけでなく、人間本位で従業員の活力や情熱が刺激され、ひいてはそうしたデザインの中に狙いが隠されている場合、それはさらなる加点要素となる。分かりやすい形式は内容における足手まといとはならず、反対に一番のポイントとなるものである。

② 独特な設計理念—日本の伝統工芸と融合したデザイン

京都は長い歴史を有する都市であり、唐王朝の長安を手本に建設された。ここには多くの伝統的な手工芸が残されており、細やかなヒューマンケアに溢れるだけでなく、こだわりある日本のモノづくり精神の源流ともなっている。Panasonic は京都の伝統的要素と現代の科学技術を融合し、職人の手により伝統的手工芸の美意識、感性及び文化への理解を一体化することで、科学技術が急速に発達する現在においても、大量の機械化によりとって代わられることのない手作りの製品を生み出すと共に、未来の家電の多くの可能性を模索している。

展示されていた作品はたくさんあったが、ここではその中で印象深かった3つについて紹介したい。

「銀釉」－朝日焼：銀釉は朝日焼の伝統技法とパナソニックのIH技術（誘導加熱技術）を組み合わせた磁器の湯盤である。木のテーブルの上に湯盤を置くと、中の水が泡を立てて沸騰していく。茶を愉しむ時間において、こうした非日常的な瞬間を体験することができる。

響筒－開化堂：茶筒の蓋の開閉に合わせて音をON/OFFする。蓋を優雅に動かすと普段何気なく耳で聴く音を掌で感じることができる。時間の経過により銅製の茶筒の表面は人の体温により微妙な変化をする。開化堂の茶筒は茶筒本来の美しさ（素材表面の質感を活かし塗装をしない）が体験でき、素材特有のシルクと似た触り心地や柔らかな光沢は使う毎に深さを増す。茶筒の



蓋を閉じると自動的に静かに蓋が移動し OFF になるというこうした細やかさは手工芸ならではのものである。



水甕 - 銀砂ノ酒器：IH からの非接触給電により回転水流を起こし、水流を利用して野菜や果物を冷やす。水流により食べ物を冷やすのは日本で古くから行われてきた方法であり、こうしたデザインは人々の昔の生活への記憶を呼び起こすものである。また、水を銀砂（金属粒）に入れ替え、IH 及びペルチェによる冷却技術を利用したものが「銀砂ノ酒器」である。徳利を銀砂の中に入れて冷やすと、正確な温度調節により最高の味覚体験をもたらす。またどれほどの時間が経っても、お酒の温度は終始変わらない。

伝統工芸と現代の科学技術の融合は、物欲が横行する現在において、文化の美しさを改めて認識させるものである。時間は手工芸を見捨てるものではなく、手工芸を絶えず成長そして進歩させるものである。

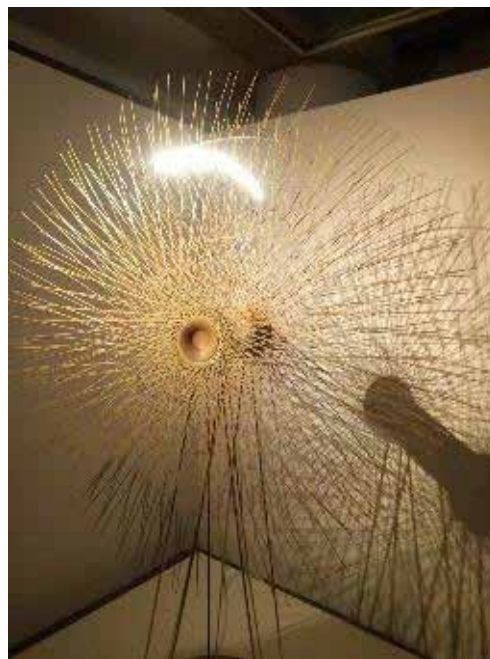
なぜですか？

問：窓の外を向いた背もたれの高いソファだが、なぜ室内を向いていないのか？またその用途は？

答：これはパナソニックがデザイナーの沈思黙考用に設けた「空間」で、独立した空間と広々とした視野によりインスピレーションが自然にもたらされる。

問：写真のこれは何ですか？

答：これは稲わらの装飾を用いた扇風機で、羽が回転する際に稲わらが揺れ、自然との一体感をもたらすものである。



感想

企業が従業員に提供する業務環境はとても重要である。企業の業務環境が入念にデザインされていれば、快適で仕事に適しているだけでなく、人間本位で従業員の活力や情熱が刺激される。

Osaka、驚きと喜び

北京科技大学学生代表

見学日時：2018年11月28日（水）14:00-19:15

見学場所：大阪大学

見学概要

大阪大学は今回私たちが訪問した最初の大学である。大阪大学は医学や工学において造詣が深く、日本における「帝国大学」の一つであることから、私は大阪大学についてかねてより耳にしていた。

この日の午後、吹田キャンパスに到着した途端、私は大阪大学の庭園のようなキャンパスに衝撃を受けた。鬱蒼と生い茂った植生に建造物が彩りを添え、その多様な植物と整然としたスタイルの建造物の数々が遠くから相呼応し、人と自然の調和の美を醸し出していた。こうした美しいキャンパスにおいて語り合いそして学ぶことは心地良いものであり、時の流れを忘れさせ、知識の海に完全に没頭することができる。

谷口記念講堂では、歓迎のあいさつの後、私たちは大阪大学の紹介ビデオを鑑賞し、大阪大学についておおよその理解を得たが、私は大阪大学の長い歴史と近代的建築物に感嘆を禁じ得ず、内在的な歴史と新興産業を共に重視する様は歴史と現代の完璧な融合だと思った。また大倉永也博士の学術講演は特に印象深かった。講演は「制御性 T 細胞の発見と免疫システムにおける役割」をテーマに行われた。その中で大倉博士からは T 細胞に関する多くの新たな発見についてのお話があり、T 細胞の免疫システムにおける重要な役割について解説を頂いた。講演を通じて私は、医学の推進における免疫科学の重要な役割について知り、新たな科学的理論や科学的発見は医学ひいては人類の文明を推進する重要な動力源であると感じた。

講演終了後、私たちは相次いで免疫学フロンティア研究センター及び微生物病研究所の「微研ミュージアム」を見学し、研究センターの中国人留学生や日本人学生との交流を通じて実験データや実験結果の誕生のプロセスを直に目の当たりにした。先輩等の丁寧な解説により私は免疫学を真に体験し、その限りない魅力を感じることができた。微研ミュージアムの見学では視野が大きく広がり、回虫、サナダムシ等の標本の陳列では、知ってはいるが馴染みがないこうした生物を初めて目にし、また電子顕微鏡を通じて私たちはミクロの世界独特の神秘を体験することができた。



見学終了後、私たちは大阪大学の学生との討論会に参加した。そこでは各グループが一つのテーマを選び討論を行った。とあるグループは日中の大学生の卒業後の仕事の違いについて討論し、また別のグループは日中の生活における異なる点等について討論をした。これまで私たちの学校の学生は英語での交流については尚更のこと、こうした討論の機会があまりなかったが、多くの日本の学生はこうした討論に慣れていることが分かり、今後私たちもこうした討論の機会を増やすべきだと思った。討論の後、各グループによる討論結果の発表となった。こうした発表には総括能力、論理的思考能力や表現能力が求められる。各グループの成果はそれぞれ異なっていたが、皆各グループの発表から日中の文化や生活面に関する知識を得ることができた。

討論会終了後、一行は懇親会に参加した。懇親会では中国と日本の学生が共に食事をしながら語らい、友情を深

めた。私たちは大阪大学の余菁華さんと友達になった他、かつて北京科技大学の同じ学部で学んだ経験のある先輩とも知り合った。懇親会はとても楽しかった。



感想

いずれにしても、大阪大学では珍しい体験をすることができた。初めて日本の同年代の若者と交流し、日本の大学キャンパスに足を踏み入れ、日本のキャンパス文化を体験し、日本の大学の研究の方向性について知るなど、こうしたたくさんの初体験は、初めて日本を訪れた私たちにとっては新たな課題となった。私たちは中国で学ぶ知識によって日本の研究プロジェクトを理解し、英語や日本語を使い日本の大学生と意思疎通を図り、彼らと協力し様々な課題を解決し、これらをきっかけとして多くのテーマについて探求していく必要がある。どこで買い物をするか、どのような美味しいものがあるかといった話題から、日中の大学生の就職状況の比較そして日中の社会や文化の違いの分析、さらにはマクロ的で大きな話題まで、どのように日中の友好を促進していくのか、こうした討論の背後には若者世代の矛盾が存在する。

そしてこうした話題の背後には、私たちの目新しい物事への憧れや探求心があり、またより豊かな生活への追求がある。もちろん、不確定な未来への不安や今後訪れる未知なるものへの恐怖もある。だが最も重要なのは、若者世代の中国人が日本の人々とどのように付き合いそして発展していくかということをしかりと展望することである。

社会的責任感に満ちた企業

北京外国語大学学生代表

見学日時：2018年11月29日（木） 9:00-11:00

見学場所：ワコール

見学概要

私たちはまず会議室においてスタッフからワコール社についての紹介を受け、おおよその理解を得た。その後同社の紹介ビデオを鑑賞し、ビデオ内ではワコールが人間科学研究所を設立し大量のデータを集め、それらを基に様々な地域の女性に適したインナーウェアを生み出していることや、同社が如何にして自らの製品に磨きをかけているのか、さらにスポーツウェアやハイヒール等その他の製品の開発といった事業の拡大についての紹介があった。ビデオの最後ではまたワコールがピンクリボン活動を通じ、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療のための支援をしているとの紹介があった。こうした紹介を通じ私たちはワコールについてより理解を深めることができた。その後、質疑応答を通じて疑問点に対する回答を頂いた。

質疑応答を終え、私たちは一階の展示スペースを訪れ同社の製品を見学した。そこではスタッフの案内の下、私たちは若者から高齢者まで様々な時期に着用するインナーウェアや、スポーツウェア等その他の分野の製品を見学した。その後はワコール・ミュージアム

・オブ・ビューティを訪れ、展示されていた様々なインナーウェアを見学し、さらにワコール人間科学研究所を見学した他、スタッフからはワコールの創業者や同社の沿革についての紹介を受けた。



なぜですか？

問：ワコールではインナーウェア以外にどのような事業を行っているのか？

答：ワコールでは女性用インナーウェアだけでなく、子ども用・男性用インナーウェア、スポーツウェア等様々な事業を行っている。また近年では、京町屋の保全のために CSR の一環として民宿事業も展開している。

感想

ワコールは、世の女性に美しくなって貰う事によって広く社会に寄与するという理念を受け継いでおり、その製品開発へのひたむきさや細やかさには感心させられた。インナーウェアを女性の身体によりフィットさせるため、ワコールでは毎年 1000 名の女性の身体のデータをとり、そのデータに基づき様々な地域や年齢層の女性用インナーウェアを生み出している。見学の際に、とある女性の幼少期から成人期そして高齢期までの毎年のデータを見かけたがこうした貴重なデータはワコールの製品の素晴らしさを裏付けるもので、製品への信頼性を自然と与えるものであった。製作時の手作りから販売時の優れたサービスまで、ワコール製品の各プロセスからは同社の緻密さとひたむきさが感じられた。

ワコールでの見学はまた私の同社への印象を覆すものであった。ワコールについて深く知る以前は、単に女性用のインナーウェアを製造する企業だと思っていたが、実際にはワコールの製品は子ども用・男性用インナーウェア、スポーツウェア等多くの分野にわたっており、且つ見学の際にはワコールのスポーツウェアも異なるスポーツ毎に設計され、非常に人気を博していることを知った。

そして私にとって最も印象深かったのはワコールの社会的責任感である。ワコールでは商品の製造以外にもピンクリボン活動を通じ、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療のための支援をしており、術後用のインナーウェアのデザイン等を通じて術後のサポートを行うなど、術後のクオリティオブライフ向上に努めている。ワコールは世の女性に美しくなって貰う事によって広く社会に寄与するとの理念を徹底すると同時に、社会に対しても非常に大きな貢献をしている。

消費者との間に強い継続的な信頼関係を構築することは容易なことではない。ワコールが欧米やアジア等の多くの市場において幅広く事業を展開できる背後には、ワコールの初心を守る態度、製品へのひたむきさ、社会に貢献する姿勢があり、こうした要素がなければ長きにわたり発展することはできない。企業であれ個人であれ、初心を忘れないとは何かをワコールでは知ることができた。

農業従事者の利益への確かな支援とその守護者

中国農業大学学生代表

見学日時：2018年11月30日（金） 9:45-11:30

見学場所：JA全農

見学概要

ここでの見学は講座によって幕を開けた。JA 全農の担当者からは概況、技術開発と実践サポートの二つの面から解説があった。解説を通じて私たちは JA の組織モデルや枠組みそしてカバー対象人数の多さ、さらには農業従事者に限らずサービスを提供していることを知った。またさらに JA の事業は監督事業、市場及び供給事業、信用貸付及び互助保険など多岐にわたっていることについて理解を深めた。その後 JA 全農の提携モデル、組織モデルやビジネスモデルについての紹介を受けた。担当者からの紹介が終わった後は質疑応答となり、私たちは紹介の内容や日頃の学習及び生活を通じて生まれた疑問について質問をし、丁寧な回答を頂いた。ただ、時間の関係で一部の学生が質問できなかったのは残念だった。



次いで、私たちは二班に分かれ内部の見学を行った。農薬の残留や品質検査実験室の見学では、農家が自らの農産品を持参し有料の検査を受けることができることを知った。ここで発行する検査報告は消費者に対し製品の安全性を証明するもので、高い経済効率の実現が可能である。窓ガラスを通して私たちは清潔な実験環境と優れた検査設備を目にし、こうしたものがきっと検査の信頼性を保証するのだと思った。

最後に私たちは屋外の見学を行い、同施設の構成についておおよその理解を得た。印象深かったのは、ここでは亡くなった動物のためにお墓を立て、定期的に追悼していることであった。彼らの生命への崇敬と感謝の心は見学者一人ひとりの心を打つものであった。

なぜですか？

JA 全農は生産者と消費者双方が共に製品の安全性を認証し信頼関係を構築する場を提供することで、生産者と消費者間の好循環を効果的に推進している。また日本の農産品の安全性の高さという点も中国国内とは大きく異なっている。ここでの見学や解説の拝聴を通じて、私たちは彼らの製品の合格率が非常に高く、一方で検査基準も厳しいことを知った。中国国内の農産品に様々な安全性の問題が存在することから、上述の点は今後私たちが解決に力を入れるべきものと言える。



感想

農業大学の学生として私たちは日本の農業の発展の現状について非常に注目していた。非営利組織である JA にとって重要なのは、生産者と消費者をつなぐプラットフォーム作りであり、サプライチェーンの中核企業として全国の農業の発展を管理することである。関連する地区の多さや対象者数の多さから、さらに大きな発展をするには一定の難しさがあるため、関わる農家や人々のサポートを得る以外にも現地の農協の協力が必要である。

日本であれその他の国であれ、農業においては従事者の高齢化の問題が存在しており、まさにこうしたことから農業の近代化の推進が必要であり、「農村振興」は口だけではなく行動に移すべきものだと言える。

真に社会に有益な企業を育成する

北京師範大学学生代表

見学日時：2018年11月30日（金）16:30-19:15

見学場所：伊藤忠商事

見学概要

伊藤忠商事に到着後、私たちはまず会議室において開発・調査部 海外室 寺澤エリアマネージャーからの詳しい紹介とビデオ資料により、伊藤忠商事の主な事業内容や沿革そして中国との交流の歴史について理解を深めた。その後、私たちは伊藤忠商事の約40名の中国語が堪能な従業員と懇親会の場で直接交流を図った。



なぜですか？

伊藤忠商事は1972年に総合商社として初めて日中貿易再開の批准を取得し、さらに初めて商務部より多国籍企業「地域本部」の認定を受け、中信グループ及び正大グループと三者協力を実施した企業である。また伊藤忠商事は「ひとりの商人、無数の使命」をコーポレートメッセージとし、社会的責任を確実に担い、利益の追求と同時に社会の発展に優れた貢献をしている。

感想

伊藤忠商事での見学において最も印象深かったのは、「ひとりの商人、無数の使命」というコーポレートメッセージであった。寺澤エリアマネージャーからの紹介で、伊藤忠商事はあらゆる分野にかかわり且つ大きな成果をあげているという印象を私は持った。だが、こうした点だけでは伊藤忠商事の素晴らしさを語るには不十分である。なぜなら利益の追求において優れた企業は少なくないからである。真に伊藤忠商事をフォーチュングローバル500入りさせ、さらに大きく発展させているのは、同社が受け継いでいる強い社会的責任感である。同社は自身の強大な財力を通じより良い世界を構築するために努力を続けており、環境保全、次世代教育、災害支援等、伊藤忠商事は限りある能力により無限の価値を生み出している。

経済効率のみを重視する企業は目まぐるしく変化する市場において発展を続けることはできない。なぜなら一企業にとって、持続可能な発展におけるもっとも重要な要素は最終的には消費者からの支持だからである。利益のみを追求するあまり消費者の利益を無視する、ひいては社会に悪影響をもたらすことをしては、その企業に待っているのは滅亡の一途である。

その上でより優れているのは、各従業員が「ひとりの商人、無数の使命」の原則を受け継いでいる点で、たとえ自身の能力に限りがあっても、力の及ぶ範囲で最大限の努力をしている。

伊藤忠商事と密接な協力関係にある我が国にとっては、伊藤忠商事から社会的責任感や団結力等多くのものを学ぶことができる。そして正に社会に足を踏み入れようとしている私たちにとっては、伊藤忠商事の従業員から初心や善美を尽くすといった多くのものを学ぶことができる。

今回の伊藤忠商事での見学では多くの収穫が得られた。その中でも重要なのは、真に市場において長く生存し発展を続ける企業は、自身の利益を追求するだけでなく経済活動を通じて現地の社会を発展させ、人々の生活を豊かにしているということである。

三菱UFJ銀行

北京師範大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月） 9:30-11:00

見学場所：三菱UFJ銀行

見学概要

三菱 UFJ 銀行到着後、私たちは会議室において同銀行のスタッフより歓迎を受け、その後 PR 資料や銀行側の解説により三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（MUFG）、三菱 UFJ 銀行及び MUFG バンク（中国）有限公司の基本概況について理解を深めた。その後、同銀行の中国人従業員である王女史より新人研修システムについての紹介があり、さらに私たちからの様々な質問に回答を頂いた。



なぜですか？

問：三菱 UFJ 銀行では新入社員を募集する際、新卒の学部生と大学院生のどちらを重視しているのか？

答：整った専門的な研修システムがあるため、新入社員の募集においては新卒の学部生を優先する傾向にある。

問：変化の激しい国際金融市場において、三菱 UFJ 銀行はどのようなリスク対策をとっているのか？

答：三菱 UFJ 銀行は金融リスク防止の問題を非常に重視している。各部署はいずれもリスク対策のシステム規則を厳しく守っており、各従業員が自身の行為を規範化することで発生の可能性のあるリスクへの優れた対応を行っている。また国内外のいずれにもリスク対応専門の人材システムを設けるなど、十分な対応措置を整えている。

問：一国の全体的な経済発展にとって、小規模の銀行により多くの発展の機会を与えるのと、小規模の銀行の数を適度に制限するのとでは、どちらが経済の健全な発展に有益なのか？

答：各国の国情の違いにより異なる方式があると考えられる。しかし小規模の銀行に多くの発展の機会を与えることは、零細企業や個人にとっては融資における利便性が高まると言える。



感想

三菱 UFJ 銀行での見学では、王女史から三菱 UFJ 銀行を含む多くの日本企業では新入社員研修を非常に重視しており、整った新人研修システムにより、卒業したばかりの大学生が業務に必要な様々な基本的技能を学び企業の戦力となっているとのお話があった。それ以外にも、こうした研修制度の存在により、企業は安心して新卒生を起用でき、応募者の専攻を問うことなく、応募者自身が企業の求める素養を持っているかを重視している。こうすることで、社会に足を踏み入れていない大学生が迷いや焦りを感じる事がなくなる。そして学問から就職そして入職のプロセス全体において安定した印象を与える。これもまた私たちのこれまでの日本企業への印象と合致する。だがそれと同時に、中国国内の新卒の学部生の就職状況が依然として厳しく、学部生の段階は多くの学生にとって足がかりに過ぎず、その中の大部分の学生が大学院での学問を選択する理由は卒業後により良い仕事に就くため、学術的な研究の目的からではないことを私たちは知っている。私たちはこうした現象から、中国の企業が人手を必要とする際に真に重視するのは何か、そして中国の大学生が学部生の段階でどういった能力を重点的に高め、どういった能力が疎かになっているのか、日本企業の新人研修制度は中国の企業にとって参考とする価値があるのではないかについて考えるべきではないだろうか。

その他、三菱 UFJ グループ全体の「おもてなし」の思想はとても印象深かった。日本が独自に生み出した「おもてなし」という言葉には、人と接する際の正しい行動基準、即ち、常に相手の立場に立って物事を考え、文化的に違いは違いとして尊重しながら共通点を探り、行動の背景にある深層的な意義を本質的に理解するという意味が含まれている。

国の交わりは民の親しきにあり、民の親しきは心のつながりにあり

北京外国語大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月） 11:30-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要



私たち訪日団一行は、12月3日の11時半に都心にある日比谷松本楼に到着した。そして日比谷松本楼ならではの美食を堪能した後、松本楼社長で梅屋庄吉氏の曾孫にあたる小坂文乃女史からの孫中山、梅屋庄吉両氏の革命時期の友情についてのお話を拝聴した。

なぜですか？

問：孫中山氏が日本で中国同盟会を結成したことは知っているが、当時の革命過程において孫中山氏をサポートした日本人はいるのか？

答：サポートした日本人は存在する。その中でも最も重要だったのは梅屋庄吉氏である。二人は香港で出会い、意気投合し親しい間柄となった。梅屋庄吉氏は孫中山氏の革命事業を軍備購入など金銭面で支援し、その後革命の成果が袁世凱に奪われた際は孫中山氏の日本亡命を手助けした。そして南京での孫中山氏の国葬の際は、日本人としてただ一人孫中山氏の柩に付き添っている。梅屋庄吉氏は孫中山氏と半生を共にした親友である。

問：歴史の教科書では孫中山氏の記念銅像を見かけるが、この銅像と梅屋庄吉氏にはどのような関係があるのか？

答：銅像は、孫中山氏が亡くなった後、梅屋庄吉氏が大金をかけ作ったもので、このために彼は自身の娘千世子の結婚資金まで利用した。この銅像には梅屋氏の孫中山氏への尊敬の念や思いが込められているだけでなく、中国において孫中山氏のような「中日友好、アジア振興、人類平等」という偉大な理想を持つ後継者が現れてほしいとの梅屋氏の熱意が示されている。

問：宋慶齡女史が家族の反対を押し切り20歳以上も年上の孫中山氏と結婚したことは美談と言える。二人は東京で結婚したが、梅屋氏はこの時どのような役割を果たしたのか？

答：梅屋夫婦はこの時仲人の役割を果たした。梅屋夫婦は二人の気持ちを充分理解していて、二人の結婚を後押しした。この事からは、プライベートも打ち明ける孫中山氏と梅屋庄吉氏の付き合いの深さが分かる。



感想

今回の見学では、日本初の西洋式公園である日比谷公園の美しさや松本楼の美食もさることながら、最も印象深かったのは梅屋庄吉氏と孫中山氏との偉大な革命時期の友情であった。

まさしく「国の交わりは民の親しきにあり、民の親しきは心のつながりにある」であった。二人の素晴らしい友情は改めてこの言葉における、心は「日中友好、アジア振興そして人類の平等の理想に関して私たちの考えは一致している（孫中山氏の墓前での梅屋庄吉氏による悼辞）」でつながり、民は「君は兵を挙げたまえ。我は財を挙げて支援す」の経済的援助や孫中山氏の日本亡命時のサポート、そして孫中山氏と宋慶鈴女史の結婚における後押しといったもので親しくなり、国は梅屋庄吉氏の手記に記された「私は中国の革命への参加を決意する」との言葉により交わる、との意味を伝えるものであった。



これらから今日の時代を見ると、この3つの段階において心のつながりは基礎であり、民の親しきは経路で、国の交わりは条件が整えば自然に成就するものであることが分かる。私たちは今回の活動の参加者として、今後も梅屋庄吉氏と孫中山氏との革命の友情に学び、広い心を持ち、世界的視野に立って物事を考え、心のつながりと民の親しさの理念を徹底し、日中友好に自らの貢献をすべきである。

尽きない春が架け橋となる

北京林業大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月）14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

見学概要

2018年12月3日、中日友好協会の関湧理事を団長とする第23回「走近日企・感受日本」中国大学生代表団は中国駐日大使館を訪れた。

そして大使館を代表して律桂軍公使参事官から私たち代表団の訪問への歓迎をいただいた。

その後、6大学の代表者が日本滞在期間中の感想についてそれぞれ発言を行った。北京大学の高乾さんは「製造業を希望する人が減っているのはなぜか」というタイトルで自身の感想を述べ、さらに「人類の新時代を迎えるにあたり、異なる文化が互いに学び、受け入れあう必要がある」との意見を述べた。北京師範大学の陳心如さんは企業の社会的責任感について自身の意見を述べた。北京外国



語大学の周戈さんはホームステイの感想についての紹介と、現在の状況を踏まえ如何に中国を紹介し、日中両国民の心と心の距離を近づけるかについての意見を述べた。中国農業大学の康慧薇さんは農業の見地から中国国内の農業の現状等について探求し、さらに人材の浪費について話題を広げ自身の実感を述べた。北京科技大学の劉哲さんは「日本の環境、国民、社会」の3つの面から自身の実感を述べた。北京林業大学の楊騰紫さんはJA全農における殺処分した害虫への追悼、日本社会における「万物には魂が存在する」等の観点から、日本の生命や自然への畏敬の念を紹介し、さらに日中の森林カバレッジ率の比較を行い、学校で教わった「美しい国土を創造する」との教を胸に刻み、環境事業にささやかな貢献をしていく意向を示した。

6大学の代表者の発言が終わった後、律桂軍公使参事官は学生への期待を述べられ、また日中両国の文化や技術交流を振り返り、日中関係の歴史、現状そして未来についての見方を示すと同時に、「今年は改革開放及び日中平和友好条約締結40周年で、日中関係はすでに正しい軌道に乗り良好な状態を維持している。日中双方はグローバル化の推進、自由な多国間貿易体制の維持等について積極的な提携を実施する」との意向を強調された。

最後に、代表団全員が大使館前で記念写真を撮影した。

なぜですか？

日中両国は将来的な二国間貿易の拡大が可能だけでなく、第三国との多角的提携も現在積極的に推し進めている。伊藤忠商事は中国中信グループと提携し、ドイツでの海上風力発電プロジェクトへの投資を拡大している。中国投資は三菱UFJフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ等企業と「戦略提携に関する覚書」を締結した。日中両国の将来的な提携の前途は無限である。



感想

「ここ（大使館）に着いたら帰宅と同じ」という律公使参事官の言葉は今でも私の脳に刻まれている。わずか8日間の日本滞在ではあったが、私たちは異国の地での望郷の思いや強い帰属感というものを感ずることができた。律公使参事官のお話を通じ、私たちは現在の日中関係や新時代における大学生として負うべき責任について、より明確な認識が得られ、今後日中関係を平和的共存や長きにわたる友好、相互利益提携の方向へと推し進める必要があると思った。

新たな情勢において私たちは日本への見方を正さなければならず、新たな学習のプロセスを始める必要がある。小さなものでは、日本での生活において自ら体験した水溶性のトイレトペーパーについてはすぐにでも取り入れるべきで、大きなものでは、日本の進んだ社会統治の経験、環境保全技術そして自然への畏敬の心などは私たちが学ぶべきである。それと同時に私たちは新たな相互利益提携の実施を考える必要がある。日中両国はアジアの金融の安定、自由貿易の維持及び多国間経済体制における提携を行い、共に一帯一路の安定的発展を促進し、大国としての在り方を示し、アジアの繁栄そして世界の平和のために貢献をしていく必要がある。

美しく開放的で包容力のある一流大学

北京大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月）16:30-20:00

見学場所：東京大学

見学概要

グループ討論—AI、人口高齢化、ポピュリズム、トランプ大統領。

立食パーティーでの自由交流。

東京大学では「教養学部で学んだ後に自ら学科を決定する」という方式をとっていることはかねてより耳にしていた。こうした方式は学生が多くの分野に接することを可能にし、北京大学元培学院、浙江大学竺可桢学院等我が国の多くの大学における現在の改革の方向性に合致している。そして交流において私は、東京大学の学生は知識の「幅」を重視しており、様々な専攻からなる私たちに余裕をもって対応していることに気が付いた。午後の討論会では皆は主に少子化や高齢化そして人工知能といった話題について討論を行い、1時間弱の自由討論の後、各グループはプレゼンを行い、その内容の素晴



らしさには私自身驚かされた。夜の懇親会ではまた多くの東京大学の学生と交流を図り、中にはかつて交換留学により北京大学で学んだ学生や北京でのフォーラムに参加したことのある学生もいた。日本、中国、東京大学、北京大学というものについて異なる角度からの観察を通じて導かれた彼らの観点には、とても新鮮に感じると同時に衝撃を受けた。よって私自身、こうした文化的な共通点と相違点についてより全体的な認識が得られ、また習慣によりすでに疎かにしているライフスタイルについて改めて考えさせられた。私はこうした意見交換の機会をととても大切にしている。なぜなら社会学の調査研究においてはフィールドワークこそが研究における中心的方法であり、自ら日本を訪れ東京大学のキャンパスに足を踏み入れ得られた情報は、これまで資料において間接的に得られた情報よりはるかに価値があるからである。いずれにしても、東京大学での活動は世界の一流大学の学術レベル及びその様相を知り、さらに親切で優秀な仲間と知り合うことができた非常に意義深いものであった。

なぜですか？

問：この金色に輝いている物は何かわかりますか？

答：これは本物のノーベル物理学賞のメダルである。現在まで東京大学はすでに2名のノーベル物理学賞受賞者を輩出しており、彼らのメダルや賞状はキャンパス内に展示されている。



問:これはどこですか？

答:美しい東京大学のキャンパスである。正門から入ると道の両側には銀杏並木があり、正面には長い歴史を誇るシンボルの建築物である安田講堂がある。

感想

東京大学のキャンパスの美しい環境や学術的雰囲気はとても印象深かった。キャンパスの銀杏並木は燃えるような色をしていた。北京は気候的に寒いため、銀杏の葉はすでに枯れ落ちている。またこのすべての建築物が長い歴史を有しているのには驚かされた。その他、私たちはまた本物のノーベル賞のメダルと賞状を目にしたが、これは日本の科学研究のレベルの高さを示すものであった。中国の科学界は日本に比べ大きな開きがあり、中国はこれまで一名のみがノーベル賞を受賞している。中国の大学と違い、東京大学の教授はすべてのことについて自ら担当することで彼らの能力を自由に高めている。一方中国国内の大学には、管理システム上の教授に対する多くの制約が存在している。



環境保護と経済効率の両立

中国農業大学学生代表

見学日時：2018年12月4日（火） 09:30-11:00

見学場所：ホテルニューオータニ東京

見学概要

私たちはまずホテルニューオータニの自家発電施設を見学した。同施設は発電ユニットの建設によりホテルにおける電力供給状況を改善し、電気料金の支出を減らすことを目的としている。

次いで私たちは同ホテルの汚水処理プロセスと関連設備について理解を深めた。ホテルでは厨房汚水を回収処理し、ろ過や微生物による分解により中水とした後、トイレの洗浄や屋外緑化等の散水用に使っている。こうした手

法は水資源の利用率を高め、生産コストを節約すると同時に汚染物質排出による環境汚染を大きく減らし、経済面と環境面でのウィンウィンを実現するなど、中国としても学ぶべきものであった。その後、担当者から木製の樽による飲用水保存のプロセスの紹介があり、木材自体に殺菌と消毒の効果があるとのことであった。こうした設備はコストこそ高いが、自然に優しい処理方法は顧客により優れた宿泊体験をもたらすものである。

その後私たちはごみの分類と処理の設備を見学した。生ごみに対する乾燥や発酵等一連の処理を通じ、ごみは高品質の有機肥料に生まれ変わり、こ

れらの肥料をホテルと契約する農家に提供することでホテルと農家のウィンウィンを実現するなど、廃棄物の資源化を推し進めている。

最後に私たちはホテルニューオータニの日本庭園を散策した。暖かな日差し、紅葉、緑の草むら、水流、錦鯉といったものがよく調和され一体となり、とても印象深かった。そしてホテルニューオータニの伝統建築の保護に対する意識と責任感もまた感動的であった。

なぜですか？

ホテルニューオータニの日本庭園は環境が素晴らしいだけでなく、長い歴史も有している。庭園内には100年以上の樹齢を持つ樹木がたくさんあり、その中でもカヤとイヌマキの樹齢は200年を超えている。十三重の塔は日本の南北朝時代の型で、多くの観光客が一目見ようと訪れている。また大滝はガーデンタワー建設の際に作られ、82個の組石から落下する滝の様子は幻想的な雰囲気を醸し出している。庭園は質素ながらも優雅で、人々を夢中にさせるものとなっている。



感想

東京でも有名なトップクラスのホテルであるホテルニューオータニは、環境保全の面において非常に素晴らしい取り組みをしていた。資源の再利用だけでなくコストを効果的に削減しており、さらには地球の温暖化が進む今日において多くの企業の参考となる環境保全の見本を示し、環境保護と企業経営をうまく調和させ、未来の企業における発展の新たな道を開拓している。

最後に、私たちは一般の人間として環境保全のために何ができるかを考えた場合、身近な些細なごみの分類から始め、美しい地球を次の世代に託すことが必要だと思う。

学生たちの感想文から

学生たちは毎晩、一日のスケジュールを終えてから日記形式の感想文を書き、第 23 回訪日の記録とした。以下、その一部を紹介する。

日 付：11月27日（火）1日目

大学名：北京大学

氏 名：高乾

今日は訪日の初日で、私たちは主に日本の交通、JAL への訪問と夕食の 3 つのイベントを体験した。ここではそれらを順番に述べていく。

この日の移動は多少複雑で、まずは北京から東京、そして東京から大阪に移動、その途中ではバスの乗り換えが何度あったが、印象的だった飛行機での出来事を紹介する。

JAL の機内の最前列ではスリッパの提供がされていなかった。通常、最前列の乗客の足下は十分なスペースがあるため、ほとんどの航空会社ではスリッパを提供するが、JAL では提供されていなかった。恐らくスリッパは日本では失礼にあたる行為とされているからなのだろう。JAL に対して最も印象深かったのは高品質の機内食であった。丁寧に作られた麺やシーフードのご飯、さらには美味しいアイスクリームなど、JAL ではそのサービスの質に高い要求がされており、この点は安さを売りとするアジアのその他の航空会社とは雲泥の差がある。

JAL への訪問ではまた多くの知識が得られた。私たちはエンジンの構造について知った他、二つの整備場を見学した。整備場の仕事ぶりからは、JAL の安全性への重視、リスク回避への姿勢を感じた。タイヤからエンジンまでの各部品は定期的に交換もしくはメンテナンスされる。この点はとても印象深く、JAL を代表とする一連の先端企業は十分な研究開発能力を持っているだけでなく、さらに人間本位で一切のリスクを防止している。この点については中国の一部の企業が学ぶべきだと思った。

最後に私たち一行は素晴らしいビュッフェディナーを体験した。日本料理はヘルシーで美味しく私はとても好きである。一般的に日本料理は値段が高いが、幸い私たちは今回の活動に参加していることで素晴らしい待遇を受けている。

初日は多くの収穫が得られた。二日目の訪問も楽しみにしている。

日 付：11月27日（火）1日目

大学名：北京外国語大学

氏 名：周戈

整備場見学のみならず、日本に向かう機内でも JAL については体験をすることができた。

JAL の機内では、座席のテーブルが前列の座席の動きに影響されることがないため、テーブル上の食べ物などが落ちたりすることがない。

また機長は日本語で話しかけてくれた他、日本語ができない学生には英語で話しかけるなど、思いやりを感じた。

その後 JAL の整備場を訪れたが、航空機のいずれの場所にもこだわりがあることが感じられた。この点は日本が限定的な国土資源において極めて高い効果と利益を生み出すことができる理由の一つだと思う。

この他、解説を担当したスタッフについて私は 40 代だと思っていたが、実際には 61 歳だったと知った時には、日本の「生涯現役」という言葉の意味をはっきりと理解でき、日本人の活力や社会貢献の意志に感服させられた。

日 付：11月27日（火）1日目

大学名： 北京林業大学

氏 名： 王韻玉

期待と緊張を胸に秘めた私たちは東京の羽田空港に降り立ち、訪日の旅が正式に始まった。海を渡り「丁寧に」運ばれた自分のキャリーケースのハンドルを握るまで、私は自分がすでに日本に到着したことを多少信じられないでいた。

自分の目で実際に見た日本での最初の目的地は JAL 整備場であった。航空機のジェットエンジンの動作について知り、JAL の制服を試着し、機械でグランドハンドリングを体験した他、さらにはこれまでにない至近距離にて整備場内の航空機を見学し、また航空機の離着陸の様子を観察することができた。かつて空港の厚いガラスの向こうにあった巨大な物体が突然目の前に見えるのには奇妙な感覚がした。スタッフの解説もまた分かりやすく、小学生が見学に来たとしてもきっとよく理解ができると思った。

そして最も印象深かったのは JAL のスタッフの時間への概念であった。航空教室ではまず初めにタイムスケジュールについての解説が行われた。また時計は至る所で見かけ、航空機のメンテナンスにおいても、サッカー場 4 面分の大きさの格納庫の「安全第一」の文字の下には大きな時計が掛けられていた。こうした時間や効率への重視は私たちが学ぶべきだと思った。

この他にも感動したのは至る所にあった点字で、たとえ狭い通路でもすべて点字ブロックが設置され、空港であれ整備場であれ、日本のスタッフは常に人にとって快適な距離感でゲストと向き合い、あいさつや案内そして質問への回答をしていた。これは本当に素晴らしく、人々の要望を十分に踏まえた成果だと感嘆せざるを得なかった。

日 付： 11月28日（水）【2日目】

大学名： 北京師範大学

氏 名： 陳怡帆

パナソニックのデザインは製品機能自体を大きく超越している。社会が発達しているからこそこうした企業が存在し、現代における設計や製造の他、未来の生活のために設計をし、伝統や自然といった要素と電気製品を融合しているのだと思う。水を使った投影により音を視覚化するスピーカーや刺激を与えると消える照明にはいずれも比類なき巧みな構想が含まれている。日本人は万物に神が存在すると信じているが、パナソニックの製品は神を創造するかのようである。正にこうした理念や芸術性により購入者が製品を大切に、また敬うのだろう。

大阪大学での交流はまたとても素晴らしく、私は二人の中国人留学生と知り合った。その中の一人は自分の考えをしっかりと持っていて、強い自己顕示欲と場合を問わず思ったことを口にする勇氣にはとても羨ましく思った。また免疫学の実験室の見学の際、黄俊研究員は臨床を諦めた理由として、医者とは病気に対して薬を与えることができるが、患者の病気の苦痛を解消することはできないという点について、彼自身何かしらの貢献をしたいと願い現在の道を選択したとのお話があった。私は彼の選択を羨ましく思うと同時にとても感服した。彼は自身の研究を愛し、また一種の社会的責任感を持っていた。そして大阪大学はその彼のために自由な学術的環境を提供している。これは本当に素晴らしいことであり、中国の大学もこうした方向性で発展してほしいと思った。

日 付： 11月28日（水）【2日目】

大学名： 北京師範大学

氏 名： 龍炫彤

朝、ホテルで食べた卵焼きはとても美味しかった。今回日本を訪れる前に日本人の友人と会った際、彼女は卵焼きが一番好きだと言っていたので、その時から一度食べてみたいと思っていた。やはりおいしい！

今日は天気も良く、朝は多少肌寒く感じたが、明るい日差しが降り注いでいた。日本の空気はとてもきれいで、日中

の街中は夜とは明らかに異なる賑わいを見せ、それは中に静けさを伴った賑わいであった。

Panasonic Design Kyoto のオフィスビルは意外にも「街中にひっそりと」佇んでいた。そして中に入った瞬間、この企業に対する第一印象であるスマートさ、温かさが脳裏に浮かんだ。上層階から下層階までのオープン&セキュア対応といったドリップコンセプト、パーティーやその他のイベントが開催できる9階のオープンスペース、そして一般的なグループ間の自由な意見交換が可能なもの、一人で静かに考えをまとめられるもの、すぐに決断をするために椅子を置かないものなど8階の様々な会議室、また5階のラボでは、氷を使わずお酒を冷やす器具、「ゆっくりフェードアウトする」スピーカー、静かに持っている時だけ点灯する照明、「音を形にする」スピーカーなど、私はパナソニックの「A Better Life, A Better World」の理念を心から堪能した。

午後私たちは大阪大学を訪れた。キャンパスに足を踏み入れた瞬間、私は「うわー、きれい！流石にもみじで有名な大阪大学だ！」と思った。免疫学の講座や見学の内容のいずれも私の専攻とはかけ離れていて、中国語でも理解が難しいのに外国語ではなおの事であった。しかし大阪大学の学生達との交流では時間が経つのがとても早く感じ、お別れの際は名残惜しかった。わずか4時間の交流だったが、彼らとは仲良くなることができた。

やさしくてかわいい翼子さん、きれいで日本語が上手な王さん、ほんとうにみんなのことが大好きだ！！人との出会いは大切に作るものだ。みんなと出会ってよかった。また会える機会がきつとあると私は楽しみにしています！

日 付：11月28日（水）【2日目】

大学名：北京外国語大学

氏 名：徐浩天

今日は日本での2日目だが、正式な訪問は今日から始まった。午前、私たちはPanasonic Design Kyotoを見学した。そこでは京都の伝統工芸と現代的デザインが融合したたくさんの製品を目にし、伝統工芸の継承と時代の融合を大いに広めるとの企業の在り方を感じ、この点は中国の多くの企業が学ぶべきものと思った。見学の後、私たちは製品のデザインを体験し、グループに分かれて弁当のデザイン考案と発表を行った。皆はユニークな意見を出し、私たちは食事をしながら皆の創意に耳を傾けた。パナソニックにおいても一つ印象深かったのは、彼らの会議室とワーキングスペースであった。スタッフがあらゆる状況において自由に討論できるように、ここでは正式な会議室、家庭的スタイルのソファ、一人で外を眺めることができるソファ、そして立ったまま討論できるスペースが設置されていた。またスタッフが場所にとらわれず仕事ができるフリーアドレスのワーキングスペースに私はとても魅力を感じ、できればパナソニックで働きたいと思った。

午後、私たちは大阪大学を訪れた。午前の発表を終え、午後また新たな発表を行うことから、思考が多少追いつかなかったが、大阪大学の中国人の先輩学生や中国語を学ぶ日本人学生らがサポートをしてくれた。発表は交流を促進させる手段にすぎず、グループ討論では先輩方が日本留学や語学学習におけるアドバイスをしてくれた。私はすでに3年生で、一つの重要な節目になったと言えるから、そろそろ進路を考えなければと思った。今後もし機会があれば日本で大学院に進みたいので、今から頑張ろうと思う。

日 付：11月28日（水）【2日目】

大学名：中国農業大学

氏 名：王添

もしこの日見学した企業を一言で表すとしたら、私は「自由」という言葉を選ぶ。自由は制約のない勝手気ままな意味ではなく、最も快適で自然な状態で自身の潜在能力を掘り起こし、より良い効果を挙げることである。

今日の最初の訪問先はPanasonic Design Kyotoであった。長い歴史を有する成熟した技術を持つ企業である同社は、斬新な価値観により家電を通じて世界に「くらしにもっと憧れを」の理念を発信している。このオフィスは自由な

雰囲気満ちており、フリーアドレスのワーキングスペース、開放的な会議室、静かに考え事ができるスペース、お酒を飲みながら討論ができるオープンスペース、ドリップを基にしたフロアコンセプトなどのいずれもデザインにおけるひらめきを刺激する重要な要素である。同社と工芸家が共同で生み出した製品は視覚、聴覚、触覚が融合した体験をもたらすもので、それら製品は機械的なツールではなく、使うことで生活と対話をし、使用する者に生活の中の美を感じさせ、より生活を愛するようになる。これは正にパナソニックの「A Better Life, A Better World」の理念に合致している。

二つめの訪問先は大阪大学であった。同大学の免疫学は世界トップのレベルである。お話を聴いている中、私は高校時代の生物で学んだ知識を思い起こし、ここの実験室や自由で純粋な雰囲気はとても印象深かった。先輩の紹介によると、ここでは皆が研究に専念し、論文の引用率のみで自身の成果を証明し、学術とそれ以外のごちゃごちゃした物事を一緒にすることはない。また実験のプロセスで遭遇する問題について私は先輩と討論した。私の専攻は実験を必要としないが、彼らの精神や日常の学習については相通じるものがあると思った。その後私はまた実験室における最新設備について知識を深め、さらに北京科技大学及び大阪大学の学生と、日中の学生の卒業後そして仕事への観念の違いについて討論した。

今日はたくさん自由な討論をし、これらの街が好きになった。

日 付：11月28日（水）【2日目】

大学名：中国農業大学

氏 名：林百欣

今日の最初の訪問先は世界に名高いパナソニックのデザイン拠点であった。9階のオープンスペースを訪れると、その素晴らしい環境と快適さには目を見張るものがあった。至る所のデザイン性は企業の創造力の高さをはっきりと示していた。その後見学した実物の製品はとても印象深かった。芸術性や実用性等多方面の要素を融合し開発された製品からは「A Better Life, A Better World」という企業のブランドスローガンが感じられた。また7階と6階のワーキングスペースもとても人間本位で、中国の企業はこれに比べると多少ずさんで単調だと思った。その後のグループワークで行った弁当のデザイン考案はとても面白かった。皆はユニークなアイデアをたくさん出し互いに交流し、皆が素晴らしいと考える意見が生まれた時の心からの嬉しさと興奮はこれ以上ないもので、こうした点もデザインにおける楽しみだと思った。それと同時に私自身もブレインストーミングから分類そして羅列さらには整理まで、これらの各段階を繰り返していくというデザインにおける考え方を学ぶことができた。

午後は今回初の大学での同年代の学生との交流で、私たちはまず大阪大学の紹介ビデオを鑑賞し、同大学が世界的視野を有するトップクラスの大学で、免疫学においては世界トップであることを知った。T細胞に関する講座を拝聴できたのはとても光栄だった。ちょうど私も生命科学分野で学んでいるため、講座を楽しく拝聴することができた。その後の見学でも私的になじみ深く、私が所属する植物保護分野のほとんどにおいて病原微生物方面の研究をしていることから、見学で目にした標本や実験室における様々な器具については中国国内のものと似ていると思った。

最後の大阪大学の学生との交流や討論においても、とても多くの収穫が得られた。皆のライフスタイルは本当に様々で、こうした違いは正に多彩な世界を構成するベースとなっており、また私たちが交流を図る理由だとも言える。面と向き合って交流をしてこそ、日本の大学や学生がどういったものなのかについて自分の中でははっきりと認識することができる。今後さらに多くの交流の機会があることを願っている。

日 付：11月29日（木）【3日目】

大学名：北京大学

氏 名：李南鵬

今日はインナーウェアの企業であるワコールを訪問し、その後東福寺で京都の紅葉を觀賞し、新幹線で温泉天国

の箱根に向かった。

高いコストを恐れず、高品質の設計と人間本位のコンサルティングにより顧客に最良の体験を提供するというワコールの発展モデルは学ぶべきものである。また感心したのは、ワコールが乳がん関連の公益事業に関わり、企業イメージを大きく高めていることである。また 30 年後に向けたワコールカプセルからも同社の時間の経過と共に新鮮に感じられる、また終始一貫した精神が窺える。塚本幸一氏の隸書は力強く私たちは感服させられた。

その後の東福寺では北京で見られなかった紅葉の様子を目にすることができた。青空に映える紅葉を見上げた時、私たちは鮮やかな色彩や自然の美しさに心を打たれたが、日本人がこの景色を目にしたときにどのように感じるのかについては知る由がなかった。この点については今回の活動を通じて知りたいと思っている。

新幹線はスピーディーで、現地時間の 4 時過ぎには日が落ち始め、小田原に着いた時には、明かりの中の湯本温泉の夜景しか目にすることができなかった。明日は早起きしてここの風景を観賞したいと思う。

日 付：11月29日（木）【3日目】

大学名：中国農業大学

氏 名：王新宇

今日は訪日 3 日目で、午前私たちはワコールを訪れた。同社はインナーウェアをはじめ現在では靴、スポーツウェア、男性用インナーウェア及びその他繊維製品の事業を展開するなど巨大な産業を形成している。

ワコールでは同社の宣伝ビデオを鑑賞し、さらに展示室では同社が創業当時のインナーウェアからその後の段階的な改良を経て現在の業界をリードするブランドを構築する過程を目の当たりにした。この他、ワコールの一連の発展の過程では、科学的な研究方法を採用し、異なる年代の人々の身体データを収集しその変化の法則や頭骨の平均的データを導き出すなど自らに適した発展の手法を構築している。私はこうした点から現代の大企業におけるビッグデータの研究と運用について知ることができた。

この他、ワコールは靴やスポーツウェアといった産業に関わり規模を拡大すると同時に、乳がんの予防や患者向けの事業に尽力し、摘出手術後の患者用のインナーウェアをデザインそして製作するなど、人間本位の姿勢を示している。

また今日は東福寺の紅葉を観賞した。ここは人が多かったが皆とても親切でとても楽しく、また北京ではこの時期には紅葉がほとんど見られないことから、私は写真をたくさん撮影した。その後私たちは新幹線で箱根の旅館に向かい、そこでは日本の優れた温泉サービスを体験し、日本特有の温泉文化について知ることができた。温泉に浸かり習慣を学ぶ過程は、私にとって身体と心が休まるものであった。

日 付：11月29日（木）【3日目】

大学名：北京科技大学

氏 名：趙紓羽

午前、私たちはワコールを訪れた。私は同社の成り立ちと目標にとっても驚かされた。ワコールの創業者は他人のために生きることを信念とし、その素晴らしい先見の明と創意、そして女性に美しくなって貰うとの目標によりこれまで業界をリードしてきた。それだけでなく同社はまた企業の社会的責任を重視しており、乳がんの早期発見や防止に関する公益プロジェクトに力を入れている。より優れた、身体にフィットするインナーウェアをデザインするため、同社はさらにワコール人間科学研究所を設置し、毎年大量の人体データを測定・記録している。

その後私たち一行は東福寺を訪れた。随行スタッフの事前の下見にはとても感謝している。東福寺に到着すると秋の気配が色濃く感じられた。真っ赤な紅葉は寺院をはみ出んばかりで、地形をうまく利用した日本庭園は建物を通じてそれぞれの風景を大きく見せていた。

温泉旅館では生まれて初めて浴衣を身に着け私たちはとても感激した。宴会料理もとても豪勢で、各料理からは心遣いが感じられた。そして最も印象深かったのは懇親会で、冷和華さんのダンスはとても可愛らしく、董林さんの DJ では皆が盛り上がった。わずか三日間で皆は旧友のように打ち解けていた。

中国国内の温泉とは異なり、日本の温泉は人に安らぎをもたらすもので、皆は入浴前に身体をきれいにしてから温泉を堪能した。

日 付：11月29日（木）【3日目】

大学名：北京林業大学

氏 名：楊騰紫

今日、私たちはワコール社の見学に訪れた。会社のゲートをくぐるとすぐ小さな「和江神社」を見かけた。その後私たちはワコールの前身が「和江」という名前であることを知った。そしてこの和江神社もまたワコールの守護神である。ワコール社内の博物館では、インナーウェアの発展の歴史について理解を深めた他、消費者の求めるデザインを生み出すためのワコールのたゆまぬ努力の様子も目にすることができた。顧客により良い体験を届けるためだけにワコールは長い年月をかけてたくさんの女性の体型データを集め、製品づくりに役立てている。これはまさに日本で言うところの「モノづくり精神」である。その後私たちは東福寺を訪れ紅葉を観賞した。東福寺は京都における紅葉の名所で、観光客が多くとても賑やかであった。ここは来た甲斐があり、見渡す限りの紅葉は正に見頃で、古風な庭園と互いを引き立て合い、和風の静寂の美を際立たせていた。通天橋から遠くを眺めると至る所が美しく、心が揺さぶられた。

紅葉の観賞を終えた後、私たちは新幹線で箱根に向かった。新幹線については二つの印象を持った。一つめはその「速さ」で、セキュリティチェックや検札が不要で、列車自体の本数も多いことから、中国の高速鉄道よりかなり効率的であった。二つめは「空席」で、中国の高速鉄道と比べ新幹線の空席率は高く、待合室がなくとも全く混みあうことがなかった。しかし、車両自体の安定性については高速鉄道が多少上回っていると感じた。

その夜、私たちは懷石料理に舌鼓を打った。だが実のところ懷石料理は見た目こそ良かったが、味については自分の口には合わなかった。その夜最も嬉しかったのは露天風呂で、夜景を見ながらの温泉は天にも昇るような心地であった。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京大学

氏 名：謝霄鶴

海辺の高速道路に沿って私たちは紅葉に彩られた天成園を離れ、この日の訪問を始めた。その道中、私たちは山や海の美しい景色を楽しんだ他、天候が良かったことから富士山も目にすることができた。和風の美景（ドラマ内のような画面）はこの日のオープニングセレモニーとなった。

私たちの最初の訪問先は JA 全農であった。JA は一般の企業と異なり、同組織は多くの農業生産者の連合組合である。全農は 1972 年に全販連と全購連が合併して誕生した。中国国内の農業従事者が各個に発展するのとは異なり、日本では全農が売買の橋渡し役となり、統一的な調整、発展促進の役割を果たしている。また JA は農薬の安全な残留度合を実現するため、農業機械の操縦者を育成している。また農薬検査では技術と最新の科学研究を結び付けている。中国の現段階の農業生産は比較的立ち遅れている段階であり、全農のモデルには私たちが学ぶべき点がたくさんある。

午後、私たちは東京駅と皇居を見学した。そこは城、水、鴉、宮、黒松と青い宮城が引き立て合い、厳かさや神秘性に満ちていた。その後私たちは伊藤忠商事を訪れた。大企業である伊藤忠商事はファミリーマートなど多くの事業を展開している。その他伊藤忠商事は早くから中国企業とパートナーシップを締結し、「全社員の 4 人のうち 1 人が中

国語に堪能になる」との千人の中国人材計画を行い、「三方よし」の局面構築に尽力している。「ひとりの商人、無数の使命」は伊藤忠商事のコーポレートメッセージである。

その夜、私たちは伊藤忠商事の役員や従業員の代表から熱烈的な歓迎を受けた。東京の夜景が一望できる宴会ホールにて従業員らと踏み込んだ交流を行った。東京で行われている夜8時には必ず退社するとの改革には私自身特に驚かされた。サラリーマンにとってはこうした過度の残業を防ぐ制度は最良のヒューマンケアそして社会的良薬である。同社の多くの従業員は早稲田大学や東京大学といった著名学府を卒業しており、スーツに身を固めながらもとても親切で、私たちに多くの事を紹介してくれた。

夜、私たちは李克強総理が訪日した際に滞在したホテルニューオータニに宿泊し、赤坂一帯からは日本のナイトライフの様子を感じることができた。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京大学

氏 名：史喬心

あっという間に訪日のスケジュールも約半分を終えた。この日私たちはJA 全農（平塚市）の見学の後、東京へ移動し皇居と東京駅そして伊藤忠商事の見学を行った。

JA 全農の見学では、その運営モデルや遺伝子組み換え食物の問題について積極的な討論をした。JA は農業従事者と販売側の橋渡し役であり、JA の存在により農業従事者は比較的高い収入が保証され、市場の調整メカニズムに問題が発生したり、凶作のため品質が不十分であったりした場合でも買取価格は変わらない。こうした産業チェーン式の組合連合会は農業従事者の権益を大きく保証できるだけでなく、単独での商談や連絡にかかる多くの労働力や物資のコストを省くことができる。中国農業大学の学生らはこうしたモデルについて詳しく質問をしていた。今後の中国の農業は、彼らのリーダーシップの下きつとJA の優れた点に学び、これまで以上に大きく発展すると信じている。

銀杏の落ち葉に彩られた皇居は特別な趣があり、皇室の威厳を引き立たせると同時にロマンチックさも感じられた。暖かい日差しの中私たちは記念写真を撮り、この素晴らしいひと時を記録に収めた。

午後の伊藤忠商事での見学と交流はとても有意義であった。日本で4番目、フォーチュングローバル500の企業である伊藤忠商事のコーポレートメッセージは「ひとりの商人、無数の使命」であり、こうした長きに渡り名声を獲得している商社が私たち大学生のためにこれほど多くの素晴らしい活動を手配し、常に「無数の使命」という企業の社会的責任感を持ち続け、4,285名の従業員の中から中国語を話せる従業員を1,000名育成するといったことは容易なことではない。伊藤忠商事がこれほどまでに成長した要因は、内部の活力と外部との三方よしの関係である。懇親会参加者は皆中国語が堪能であり、これは伊藤忠商事のオールマイティーな人材育成の成果であると同時に、同社の中国との幅広い提携の維持に向けた自信の表れである。

明日はホームステイで日本の人々の生活を実際に体験することができるので、とても楽しみにしている。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京外国語大学

氏 名：周彩

11月30日は私にとって新たな世界の道が開けた素晴らしい一日であった。早朝、箱根の美しい温泉と滝に別れを告げ、JA 全農と伊藤忠商事訪問へ出発した。

私の視野や知識はあまりにも少なすぎると言わざるを得なかった。私はこれまで全農や伊藤忠商事がどのような組織なのかについて何の知識もなかったどころか、その名前すら知らなかったが、この日の見学を通じて一定の理解をすることができた。

私自身、農業研究等の分野への興味はあまりないが、日本に全農のような組織があることにはとても驚かされた。農業において、農業従事者や農地等ばらばらな要素を統合するのは難しいことであり、アメリカのように機械化管理がしやすいよう農地全体を農場主に任せるのとは異なり、営利を目的とせず、農産品や食品の安全を保証するために全国各地の農産品を対象に検査サービスを行っているという全農の取り組みについて知ることができた。その他どういった種の生産性が高いのか、どういった農薬の残留度合が低いのかについて研究をするなど、全農は自らの努力を続けている。

大型商社である伊藤忠商事に対する最も直接的な印象は何でもやる、というもので、同社への訪問においてもその点を改めて感じた。紡績、機械、金属、エネルギー・化学、穀類・食用油・食品、生活資材そして住宅、情報・金融などその事業範囲の広さは私の予想を大きく超えていた。伊藤忠商事は「ひとりの商人、無数の使命」をコーポレートメッセージとし、「三方よし」を目標に新時代における進化とモデルチェンジを絶えず実現している。特に社会貢献の面では、アフリカ地区における森林保護、文庫事業の実施、電子書籍の普及等に関して貢献を続けている。

今日訪問した二つの企業からはいずれも企業の社会的責任感の重要性を感じ、相応の社会的責任を負うことでのみ企業が長きに渡り成長することができるということを知った。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京科技大学

氏 名：李逸軒

今日私たちは二つの重要な企業を訪問した。午前にはJA 全農を訪れ、日本の農業運営及び産業構造に関する知識を学んだ。「全農」は企業ではなく協同組合連合会であり、その会員の農業従事者は全農のサポートの下農産品の加工や販売を行うなど、全農は自家製品の産業チェーンと販売ルートの構築のみならず、農業従事者の社会的地位を高めている。この他、全農はまた「農薬開発」、「肥料性能検査」等に力を入れ、多くの成果を獲得している。全農での学習を通じて、「素人」だった私は科学的角度から日本の農業について一定の理解ができたなど、多くの収穫が得られた。

午後私たちは伊藤忠商事を訪れた。私はこれまで「商事」とは単純に投資会社のことだと思っていたが、スタッフの解説により私は新たな認識が得られ、「開発、貿易、小売り、投資」などを含む大型企業で、非常に多くの事業を展開していることを知った。また伊藤忠商事の経営理念では売り手や買い手への配慮をしている他、さらに社会的責任を担い、「熱帯林再生」や「障害を持つ子どもを対象とした子ども文庫助成」など社会に対して多くの貢献をしていることを知った。その後の同社従業員との交流では、伊藤忠商事の大規模な体制について理解を深めた。正に従業員一人ひとりのひたむきな努力が会社全体をゆるぎないものになっているのだと思った。

二つの企業への訪問では、私自身視野が広がり、多くの収穫が得られた。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京科技大学

氏 名：張凱集

今日私たちはまず JA 全農を訪れ、ここでは同組織は農業従事者の組合連合会のような組織であることを知った。印象深かったのは JA 全農の組織や形式の多様性であった。JA 全農はとても大型の組織で、中国国内ではこうした組織がなく組合も小さなもので分散している。JA 全農は農業従事者にとって非常に理想的な組織の在り方を私たちに見せてくれた。JA 全農は農業従事者のために新たな技術や生産手段をもたらしている他、販売管理を行うことで、農業従事者が安心して生産に専念できるようにしている。サプライヤーに対しては、JA 全農はまた有料の残留農薬検査を行うことで消費者への食品の安全性保障をしている他、収入源の一つとしている。こうした点について私は非常

に理想的な組織との印象を受けた。JA 全農はこれらをすべて実現しており、中国も JA 全農に学び中国の農業を発展させ、また農業従事者の経済レベルを引き上げるべきだと思う。そして情報の非対称性による巨大な浪費を回避する必要がある。

JA 全農を離れた後、私たちは伊藤忠商事を訪れた。特に感動したのは商社側の応対や紹介そしてスピーチのすべてが中国語で行われたことで、気配りが感じられたと共に身近に感じることができた。伊藤忠商事を訪れる前、私は商社という存在についてあまり知識がなく、また伊藤忠商事が実は多くの有名な中国企業と密接な関係にあることも知らなかった。そして今回司会者の紹介を通じ、伊藤忠商事の 4 分の 1 の従業員が中国語を話すことを知ったが、これは中国本土にない企業において実現することは非常に難しく、こうした点からは伊藤忠商事の中国に対する友好的で積極的な提携の姿勢が感じられ、また日本企業と中国企業の提携が広範囲に及んでいることを知った。

夜は伊藤忠商事での懇親会に参加し、一部の若い従業員の普段の仕事や生活の様子について知ることができた。他、彼らが頻繁に中国へ出張し事業についての協議をしている、そして彼らの生活の場である東京の不動産価格は北京や上海同様に高いため、小さなマンションにしか住めず、自身の努力で良い暮らしを実現する必要があることを知った。今日もまた多くの収穫があった。明日のホームステイを楽しみにしている。

日 付：11月30日（金）【4日目】

大学名：北京林業大学

氏 名：冷和華

午前は JA 全農の訪問で、スタッフからの詳しい説明により私はここが企業ではなく世界最大の共同組合連合会であることを知った。JA 全農の運営原則は依存関係の構築をベースに長期的な付き合いをするというもので、これは私のサークル活動にとっても参考となるものであった。全農は農産物の流通において重要な役割を果たすだけでなく、科学技術的にも大きな成果を挙げている。天敵からの保護装置、アンモニア・リン・カリウムの差別化した配合比率による肥料作成等からは、問題への対応について様々な角度から考えることの必要性を学んだ。

午後私たちは伊藤忠商事を訪れた。「いざ、次世代商人へ」のスローガンはとてもインパクトがあった。私にとって最も印象深かったのは「三方よし」の理念である。これはビジネスにおいては売り手、買い手、社会の三者が利益を享受できなければならないとするもので、広大な構図についての価値観と弁証法的知識を示している。スタッフからの紹介で、伊藤忠商事は中信グループ、正大グループと三者提携を行っており、新時代に向けて事業を進化させると同時に、中国市場を非常に重視していることを知った。そして 2015 年から「全従業員の 4 人に 1 人が中国語に堪能になる」との中国人材計画を始動しているといった点について知った時は、私自身両国の未来の密接な交流・提携と自分の未来の可能性について嬉しさを禁じ得なかった。その夜私たちは伊藤忠商事の若い従業員と交流を図った。彼らからは素晴らしい素養と共に極めて優れたコミュニケーション能力と社交能力が感じられた。これらは日本企業の採用条件の一つだと言える。

日 付：12月1日（土）【5日目】

大学名：北京師範大学

氏 名：陳心如

今日からホームステイが始まった。

幸いなことに、ホストファザーの西山さんは中国語ができるため、かねてより WeChat を通じて日本に来てから行きたい場所などについて伝えてあった。本来は将来的に美大を受験する前に試験勉強をするためのアトリエだけを見学する予定だったが、アトリエの見学の際に西山さんが多摩美術大学の関係者に連絡し学校の見学の手配までしてくれた。これは本当に貴重な機会で西山さんにはとても感謝している。

多摩美術大学の見学はとても感動的で、私自身の目標も固まった。デザイン棟の環境デザインスタジオではとある女子学生が製作途中の紙模型の傍で寝ているのを見かけた。また絵画棟の廊下には画材が積まれ、スタジオの入り口には学生手作りのメンバー紹介や様々な切り貼り絵が飾られ、別の教室からはバンドの演奏練習の音や歌声が聞こえてきた。とても上手というわけではないが、彼らの楽しそうな様子は感じる事ができた。美術大学は大学の中で最も学生の個性を尊重し自由な発展を遂げることのできる場所の一つであり、私は自分の憧れる大学生活を初めて至近距離で感じると同時に、大変な部分と楽しい部分を目に焼き付ける事ができた。これから目標に向けてしっかりと頑張りたいと思う。

西山さん宅での夕食の後は早めに休息をとった。明日の武蔵野美術大学と東京藝術大学の見学を楽しみにしている。

日 付：12月1日（土）【5日目】

大学名：中国農業大学

氏 名：李雨濃

今日はホームステイの初日で、朝9時から私たちは会議室で待機しホストファミリーの到着を待った。これからの2日間のホームステイへの期待が大きかったが、心の中では意思疎通や生活習慣の面での心配から多少の緊張と不安があった。

ホストファミリーは早々に私を迎えに来てくれた。彼らの姿を見た瞬間に私のすべての心配が消えた。彼らの笑顔から、私は言葉が通じなくても楽しい週末を過ごすことができると確信した。その後の交流では思いも寄らずホストファザーとホストマザーが共に中国での長期間の滞在経験があることを知り、彼らの流暢な中国語に私は完全にリラックスすることができた。

この日、私たちはまずホストファミリー宅に戻り荷物を置いてから観光を始めた。日本のラーメンを食べたり根津神社を見学したりしたが、幸運にも神社で挙式をしている新郎新婦を見かけた。その後は東京の昔からの街並みを散策し、茶道を体験するなど、これらはいずれも私にとっては目新しく楽しいものであった。

最も印象的だったのはホストファミリー宅での夕食であった。一家全員がテーブルを囲み、楽しくおしゃべりしながらおいしい料理を堪能した。息子さんは中国語ができず、英語もまだ学び始めの段階であったが、それでも彼は私と交流しようとするなど、その和やかな雰囲気には私は実家に戻った感覚がした。

日 付：12月1日（土）【5日目】

大学名：北京科技大学

氏 名：劉哲

ホームステイ初日。

今日はホストファミリー宅に泊まるため、朝早くから興奮の気持ちを抑えつつ荷物を片付けホストファミリーとの対面を待っていた。

そしてホストファミリーとの対面では、それ以前にメールを通じて写真をもっていたので、ホストファミリーのお父さんや娘さんそして息子さんをすぐに認識することができた。私のホストファミリーはとても賑やかで優しい5人家族で、東京郊外のマンションで暮らしていた。ホストファミリー宅に入るとすぐに温かい雰囲気が感じられ、ホストマザーはお茶とお菓子を準備してくれて、3人のお子さんは私と一緒にお茶をしながらおしゃべりをした。その後昼食に私が食べたものや、遊びに行きたい場所について彼らから聞かれた私はラーメンを食べたいと答えたところ、彼らは私を連れてラーメン屋に向かった。実は後になって知ったのだが、ホストマザーは午後にパートがあったにもかかわらず時間を作ってご飯や観光に付き合ってくれたのである。

午後、私たちはお寺と植物園に行ったが、この数日の疲れが溜まっていた私は眠くなってしまい、私に昼寝をさせるためにホストファザーは私を連れて帰宅した。昼寝を終えてからは改めてスーパーに買い物に行った。その際私は自分の父親のために茶葉を買いたいと伝えたところ、ホストマザーは私のために茶葉を選んでくれた。私は心から彼らのやさしさと思いやりを感じることができた。

そして最も感動したのは二日目、12月2日は私の誕生日だったことから、ホストマザーはケーキを手作りし、ホストファミリー全員で私の誕生日を祝ってくれた。これには家族の温かさを感じることができた。

We are family!

日 付：12月1日（土）【5日目】

大学名：北京林業大学

氏 名：劉禹辰

実際に日本の一般家庭における生活を体験できるとのことで今日のホームステイはとても楽しみにしていた。

ホストファミリーの到着を待つ朝の様子はまるで肉親の到着を待つかのようで、片側に私たち30名の学生が座り、もう片側には椅子が30脚置かれ、ホストファミリーが到着するたびに学生を一人連れて行った。

私のホストファミリーは3人家族で、ホストファザーやホストマザーは優しく親しみやすく、また6歳の息子さんがいた。私たちは上野公園に行き、不忍池では蓮の花を見ながらおでんを食べるなど楽しく過ごした。その際私はわさびとからしの違いについて尋ねた。味がほとんど変わらないことからしばらく話し合ったが、色が違う以外に大した違いがないという話になり、宮口さんが言うには、日本人が食べると完全に違うものであることが分かったとのことであった。

はっきりとはしなかったが、私は中国に戻った後引き続き両者の違いについてはっきりさせ、宮口さん一家に知らせたいと思う。

日 付：12月2日（日）【6日目】

大学名：北京大学

氏 名：史喬心

ホストマザーと一緒に住宅街の清掃作業に参加するため、朝8時前には身支度を済ませ、その後手袋をしてビニール袋片手に住宅街全体のごみ拾いをした。静流ちゃんや子龍くんも参加し、楽しみながら地面の隅々までチェックをし、同様にゴミ拾いをする他の家庭に出会った際は互いに笑顔で「おはようございます」とあいさつをするなど、とても友好的で楽しい雰囲気の中で活動が行われた。

齋藤さんの家は遠いことから、この日私たちは都内での活動はせず、彼女たちと共にスーパーで食材を購入し、また近辺の日本的な建築物の写真を撮るなどした。戸田の街路はとても静かで歩行者や車すらも少なかった。和風の邸宅の傍ではみかん色の柿と木造の屋根が互いを引き立たせ、日本の秋の穏やかさと静けさを醸し出していた。時折鳩や雀が飛んでいく様子は、さながら東方の庭園の風情であった。

ホストファミリー宅に戻ってからは、静流ちゃんに折り紙を教わり、私も齋藤さんにプレゼントした武夷山岩茶や骨刻の菩薩そして中国語書籍の由来や意味合いについて紹介した。齋藤さんは気に入ったと言ってくれたが、子龍くんや静流ちゃんは「怖い」、「好きじゃない」と言っていたため私も最初は戸惑ったが、齋藤さん曰く彼らの年頃の子供は時折思っていることと反対のことを言い、日本語にはそうしたことを指す「天邪鬼」という言葉があると教えてくれた。こうして私たちは日本と中国の文化におけるユニークな物語についてたくさん語り合った。

たくさんの人がいる中での出会いは縁であり、国境を跨いでの出会いは尚更である。2日足らずの時間だったが、私は自分の目で日本の一般家庭の実際の様子を目にし、そして体験することができた。お別れの際は互いにとても名残惜しく、次の再会を約束した。子龍くんや静流ちゃんはエレベーターまで追いかけて、小さな手を振りお別れをして

くれた。これらすべてがあつという間だったが、また素晴らしいものでもあった。

日 付：12月2日（日）【6日目】

大学名：北京師範大学

氏 名：金欣

今日はホームステイの二日目である。

ホストファザーやホストマザーから行きたい場所について聞かれた私は、考えるよりも先に「書店」に行きたいと口にしてた。かねてより私は今回書店に行きたいと思っていた。と言うのも、中国では日本の書籍の購入が困難だからである。私たちは書店で1時間ほど見て回ってから急いでホテルに向かった。お別れの際は寂しさもあったが、きっと再会できると信じている。

今回私は初めてのホームステイで、坂田さん一家も初めてホストファミリーとなったが、私たちは楽しい時間を過ごすことができた。

昨日のスケジュールはとても充実していたため、昨日の日記の中にはすべての感想を書くことができなかった。昨日の午後は彼らの娘さんとその生後半年の息子さんに会いに行ったがとても可愛かった。その他には夜に帰宅した際に彼らの飼っている猫を見かけたが、私はこれまで動物を飼ったことがないのでとても嬉しかった。

日 付：12月2日（日）【6日目】

大学名：北京師範大学

氏 名：陳卓

昨晚岡村さん夫婦とおかゆは中国人の好きな朝食の一つだという話をしたところ、思いがけずこの日の朝食にはおかゆを食べることができた。岡村さんの奥さんはまた中国四川の豆板醬を使い前菜を作るなど、実家にいるような感覚を与えてくれた。昼食の際、岡村さんはまたステレオで私の好きなアニメの歌を流してくれた。

昼食の後、ホテルに戻る時間となった。その際ご夫婦は私のためにお菓子を買ってくれた。これには私自身が至れり尽くせりの世話を受けている子どものような感じがした。

お別れの時になり、岡村さん夫婦は私としっかり握手をし、日本語の勉強を頑張るよう励ましてくれた。

ホームステイの二日間では、日本を十分に堪能し、日本をより知ることができた。

日 付：12月2日（日）【6日目】

大学名：北京外国語大学

氏 名：董林

一期一会。

ホストファミリーとの出会いはこの数日間で最も感動的な出来事であった。ホストファザーやホストマザーは私にとっても良くしてくれた他、大声で叱責することのない和やかな家庭の雰囲気には私は久方ぶりの温かさを感じた。朝はホストマザーと私たち三人の子どもが一緒に朝食をとったが、私がアイドルグループの嵐が好きなのを覚えていたホストマザーは昨晚の嵐の特別番組を改めて流してくれた。そして息子さんたちとテレビを見ながらおしゃべりした後、昼食を食べに出かけた。

近く中華料理店では中国人が作る担々麺が売られていた。「成都たんたん麺が好き」という息子さんの笑顔に私は長い間あつていない自分の弟を思い出した。日本で日本風味の中華料理を食べるのも面白いと思った私は「日本のものは全部甘い」との先輩の冗談半分の言葉を思い起こしたが、麻婆豆腐の丼を食べた際にはその言葉の意

味を実際に体感することができた。

昼食の後はホストファミリーと一緒に近くの古本屋へ向かった。「自分のいらない本を売り、他の人に比較的安いコストで知識と喜びを得る機会を提供する」というコンセプトについて、私は中国でもこうした方式は可能なのではないかと考えさせられた。日本において至る所で見かける古本屋、中古車店そして古着店等は日本人の物を大切にするという本質を反映している。では中国人は日本人のこうした点に学ぶことができるだろうか？もし可能なのであれば、省エネ・環境保護の分野で中国人はこれまで以上の成果を出すことができるだろう。

お別れの際、ホストマザーと二人の息子さんは私をホテルニューオータニまで送ってくれた。そしてずっと抱きしめなかった息子さんを抱きかかえた時には涙がこぼれそうになった。また会える。

きっと。

日 付：12月3日（月）【7日目】

大学名：中国農業大学

氏 名：康慧薇

今日は最終日の一日前で私たちはまず日本で最も歴史の古い金融グループである三菱 UFJ 銀行に向かった。同グループの金融面の實力はとても強く、その傘下には銀行、信託、証券、リース、消費者金融等様々な金融形態の会社があり、その多くは業界のトップにある。またこうした強大な實力の裏では常に様々な方面の人材を受け入れており、日本だけに限らず、中国ひいては世界に向けたグローバル戦略を有している。

その後私たちは日比谷松本楼を訪れた。ここでは日本の西洋式公園の見学のみならず、歴史の背後にある孫中山氏と宋慶齡女史との愛情や梅屋庄吉氏と夫人による孫中山氏らへのサポートといった日中友好の物語についても知ることができた。日本と中国の付き合いについては本当に遙か昔まで遡ることができ、松本楼であれその他の企業であれ、いずれも両国の友好関係が感じられた。

今日の三つめの目的地は中国大使館であった。ゲートをくぐるとすぐに親しみが感じられた。外で長い期間を過ごした後にパンダ、梅の花、中国画等の中国的要素を目にするとひと際親しみが感じられ、学生らそして大使館側のスピーチもとても感慨深いものがあつた。日本では多くのものに驚きと感動を覚えたが、自身の身分や使命については常に忘れず、自分の源はどこにあるのかについては強く自覚していた。こうした心に植え付けられた文化的共通認識や愛は、どのような衝撃でも揺らぐことはない。私は終始中国人であり、終始「国民生活における多くの問題の解決」を自分の任務としている。

今日の最後の目的地は東京大学であった。日本でトップの大学では交流に参加した学生の英語レベルが非常に高く、自分の予想をはるかに超えるもので、また討論のテーマもより深かった。私たちは AI の話題について討論し、AI は人の作業を代替できるが、永遠に人類を代替することはできないとの意見で一致した。皆との討論や各グループの様々な意見を耳にすることで、自分自身多くの収穫が得られた。

日 付：12月3日（月）【7日目】

大学名：北京科技大学

氏 名：劉伊迪

今日はまず初めに三菱 UFJ 銀行を訪れた。印象深かったのは同銀行の新入社員に対する研修の方法であった。中国国内のそれとは違い、同銀行における研修は全面的で、また実践と融合したもので、学校のようなあらゆる面からの指導方式であった。また日本企業では「常に相手の立場で考える」ことが求められ、他者のためを出発点とすることは私たちが学ぶべきものである。それと、大学生の期間に成し遂げたもしくは一生懸命行ったことがあるかといった、

彼らの人員採用に関する要件についても私個人として多くを考えさせられた。

お昼は日比谷松本楼を訪れ、梅屋庄吉氏の孫中山氏への様々な支援についてのお話を伺い、日中両国間の深い友情を感じた。

その後私たちは中国大使館を訪れた。律公使参事官のお話を通じて、将来的に日中両国は金融提携や一带一路等より幅広い提携が可能なることを知った。また同時に私自身なぜ日本に来たのか、日本で何が学べるのか、学んだ知識をどのように自分自身に活かすのかといった問題について、これまで考えたことがなかったことに気が付いた。これから先、それらの答えを見つけられると信じている。

この日の四つめの訪問先は東京大学であった。グループ討論では、日本の大学生はどのようにテーマを設定するかなど、討論会について熟知していて、私たちはこうした討論に参加することはほとんどないことに気付かされた。また東京大学の学生はそれぞれ自らの観点を明確に表現できるなど、英語のレベルがとても高いと思った。これには私も英語のレベルをより高めなければならないと思った。それから私は東京大学法学部の大学院生の萌美さんと知り合い、普段の生活や学校の話など互いに語り合うなどとても楽しい一日だった。

日 付：12月4日（火）【8日目】

大学名：北京大学

氏 名：陳燕瓊

今朝はホテルニューオータニのマネージャーとスタッフの案内の下、同ホテルのエコ施設を見学した。

まず初めに私たちは污水处理の作業場を訪れ、そこではホテル全体の建築図面から全体的な構造を把握し、汚水の処理や循環の作業場では汚水が処理された後にトイレの洗浄や庭園での散水に再利用されていることを知った。木製の飲用水の貯蔵容器は殺菌や防震の効果があり、製造費用こそ高いものの利用可能な時間はより長くなっている。

その後、私たちはごみ処理場を訪れ、ごみの分類の様子を目にし、さらに生ごみを肥料にした後で提携農家に提供しウィンウィンを実現している状況について知った。

最後に日本庭園を訪れ美しい景観を楽しんだ。日本庭園と中国の園林の違いは、中国の園林は地形を活かし、それに人為的な景観を加え自然との融合を目指し「それぞれの場所で風景が異なる」、「それぞれの場所が絵画のようである」といった効果を実現しているのに対し、日本庭園は自然の成長を重視し、人為的なものがなく、鮮やかで自然な景観を実現している。

帰国の途に就く前には歓送会が開かれ、各団員からの感想の発表や、先生方そして主催者側の代表者からのあいさつがあるなど、会場はとても感動的な雰囲気であった。特にホストファミリーの皆さんが手を振りお別れをしてくれた際や、中島ガイドや横山さんと空港でお別れをする際は私たち皆が涙を流した。

その他にも、伊紗お姉さんとののんびりした時間、私が体調を崩した時の中島ガイドの気遣いそして横山さんから私の英語力に高い評価を頂いたことなどは、今でもはっきりと覚えている。

日本での旅はたくさんの収穫があり、恩義や感謝などずっと記憶に残るものとなった。

日 付：12月4日（火）【8日目】

大学名：北京外国語大学

氏 名：劉娜

今日は訪日の最終日。時間が経つのが本当に早く、全てのことについて始まったばかりでまだしっかりと体験しないうちにもう終わりを迎えてしまい、とても名残惜しく思っている。午前はずっとホテルニューオータニのエコ施設を見学した。東京での数日間私たちはホテルニューオータニに滞在したが、ホテルの環境がとても美しいと共にサービスもとて

も素晴らしかった。同ホテルは営利のみを追求するのではなく、環境保全の面においても污水处理などで大きな貢献を果たしており、関連施設を見学した私はホテルニューオータニのこうした素晴らしい取り組みに大きな衝撃を受け、中国国内のホテルもホテルニューオータニに学ぶべきだと思った。

この日最も忘れ難くまた辛かったのは歓送会であった。歓送会には私のホストファザーやホストマザーも参加してくれた。本来ホストファザーはこの日仕事だったが、私を見送るためにわざわざ仕事を休み、二人の娘さんを連れ遠い千葉から駆けつけてくれた。これには本当に感動しお別れがとても名残惜しかった。そしてホストマザーは、来年私が留学に来る際は事前に連絡してくれれば空港に出迎えに行き、彼らの自宅で数日過ごしてから私を学校まで送り届けるという言葉をかけてくれた。わずか1日半の時間で彼らとこれほど深い関係になれるとは思っていなかった。彼らが私を外国人や赤の他人と見なすことなく、家族のようにそして彼らの娘のように接してくれたことにはとても感動した。今回のホームステイは私にとって初めてであったが、貴重な経験そして忘れ難いものとなり、ホストファザーやホストマザーには心から感謝している。この他、歓送会での各団員の発言もまた印象深いものがあった。本来は各大学から代表者1名が発言をする予定だったが、皆が発言したいとのことで全員が発言をした。皆の話す感想からは私自身多くの収穫が得られた。また今回の訪日では見識を広めることができ、多くの素晴らしい友人ができ、自分の将来についてより多くを考えるようになった。この活動はとても意義深いものであり、参加できたことを光榮に思っている。

日 付：12月4日（火）【8日目】

大学名：北京林業大学

氏 名：靳松

時の経つのは早いもので、最終日があっという間にやってきた。午前中はホテルニューオータニのエコ施設を見学したが、その施設の素晴らしさに衝撃を受けると共に心の中では「すごい」の一言であった。ごみ処理の場所ですらも嫌な臭いはあまり感じられなかった。自分の予想していたものとは完全に違って、水処理の場所では、1999年に作られた木製の樽を現在でも問題なく使用していた。ホテルニューオータニではまた生ごみを有機肥料に再生し農家に提供した後に、その農家から野菜や果物を買付けるといった好循環を実現している。だが最もすごいのは、ホテルニューオータニがこうした好循環を実現できる能力を有していることである。エコ施設の見学の後は、同ホテルの400年以上の歴史を持つ日本庭園を見学した。浜離宮恩賜庭園とホテルニューオータニの日本庭園の見学を通じ、私自身日本庭園への実感がより深くなった。

その後は歓送会となった。歓送会という名ではあるが、参加した多くの学生は名残惜しさから涙していた。歓送会には三井さんも足を運び、私たちは来年に再会する約束をした。

この8日間は短かったものの、とても印象深いものとなった。日本に来る前は将来的に日本へ留学しようか迷っていた。しかし今回の機会を通じて大学三年生（翌年）は日本で一年間交換留学をし、日本をより深く体験したいと思っている。

この他、今回の日本訪問では中国と日本の違いについて強く感じた。こうした違いについてどのように理解し、どのように向き合うのかについては今後私たちが考えていかなければならないことだと思う。

最後に、中国日本商会、日中経済協会そして中日友好協会の皆様に感謝いたします。有難うございました。来年日本でお会いしましょう。

学生たちの観た日本

大学名： 北京大学

氏 名： 謝霄鶴

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

5.アニメなどのソフトパワー

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

- ① 日中両国は古くから礼儀の国であるが、日本文化における細やかなマナーや礼儀そして他人に迷惑をかけないという相手の立場に立った考え方は、より際立ったものである。こうした考え方はすでに社会に浸透しており、日本人の生活のあらゆる部分で感じることができる。或いはこれもまた中国人が常々称賛する、エスカレーターで片側に立つ、公共の場所で大声を出さない、出会った際には挨拶をする、「よろしくお願いします」と言うなどの日本人の素養の高さなのかもしれない。

こうしたマナーは形式化しすぎで、すでに人々が遵守すべき「しきたり」になっているという人もいるかもしれないが、私が思うにこうした社会規範は規定でも「形式化しすぎ」でもなく、異なる個人間の摩擦を減らす社会における潤滑剤のような存在である。まさにルソーが言う通り自然状態の人間は敵対関係にあるが、文明の発展と礼、徳、義が人と人の関係を発展させ、「社会」の二文字を物語っているのである。

- ② アジアをリードする日本のアニメ、映画、音楽等のソフトパワーの発信度合には感嘆せざるを得なかった。秋葉原では自らの好きなものを探す様々な国の人々の姿を見かけた。私たちの世代において幼いころに「ドラえもん」、「ポケットモンスター」、「コナン」を見たことがない人はほとんどいない。また日本はさらに世界最大のシングル盤市場であると同時に世界で二番目に大きなアルバム市場である。これは日本人の高い著作権意識に関連している以外にも、日本の音楽業界の成熟度合を示すもので、タワーレコードや HMV 等の大型 CD ショップは中国国内ではほぼ見かけない。
- ③ 日本の生活における利便性の高さもまた大きな特色である。セブンイレブン、ファミリーマートといったコンビニエンスストア、自動販売機等はすでに広く普及しており、ホストファミリー宅での宿泊体験から言えば、「スマート住宅」は将来的に中国市場でのニーズが高まる技術で、ホストファミリー宅の照明システムや浴室システム及び家屋全体の換気システムには大きな利便性を感じた。よってこうしたものもいずれ中国の一般家庭に普及していくと信じている。

大学名： 北京大学

氏 名： 陳燕瓊

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本に来てからはどこに行っても至る所で「すみません」というお詫びの言葉を耳にした。私たちの接待を行うスタッフはいつも私たち一人ひとりに「いらっしやいませ」と声をかけてお辞儀をしていた。そのため私は日本に来てから「すみません」、「有難うございます」の言葉を真っ先に覚え、またお辞儀をするようになった。こうした日常的な礼儀は日本文化に深く浸透している。

これと相通じるものとしては「他人に配慮する」という考え方がある。三菱 UFJ 銀行の王女史の話にあったように、プ

リンターが壊れたという出来事への対処として、他者の利便性を最大限高めるため、彼らが同僚にそれを伝えると同時に最寄りのプリンターの場所も併せて伝えるということは一見煩雑だが、必要なことであり、多くの人の作業効率を高めることができる。この他公共の車両において人々が食べ物のにおいを車内に充満させないために食べ物を包んだり、他の乗客の迷惑にならないために小声で話をしたりしている。また優先席は常に空いており、どんなに車内が混んでいても人々は立ったままで優先席に座ることはない。これは中国では見かけない光景である。

時々こうした高い自覚と礼節は人と人の距離を遠ざけると感じるがあったが、ある時ホテルに戻る際に道に迷った私はとあるガソリンスタンドに行き道を尋ねたところ、そのスタッフがとても親切にホテルまでの道を教えてくれた。これには心が温かくなる思いがしたのと共に、彼の礼儀正しさからは何の距離感も感じられなかった。よって人と人は目に見えない線でつながっているのだと思った。ほとんどの場合、私たちは会釈をするだけの付き合いでも、いざという場合はその線が自然と伸び、交流をすることができるのである。

日本文化における社会的責任感、集団帰属意識そしてマナーや自覚といったものはいずれも重要であり、私たちが学ぶべきものである。

大学名： 北京大学

氏 名： 高乾

テーマ： 4.日中間の交流

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

一個人としての私の今回の訪日に対する感想は必ず自身のこれまでの経験の影響を受ける。これは全面的なものではなく、ひいては正しくはない可能性もある。

ここでは日中間の交流について述べたい。これはこれまでの考えや、参事官のスピーチその他様々なものをベースとしている。キーワードはグローバル化である。

日本を訪れる前、私は常に中国と日本はその国民性や文化において最も似通っていると思っていた。地縁的には私たちは近く、歴史的には私たちは密接な付き合いがあり、人種や文化的には私たちはほぼ同じである。私はかつて、日中両国はEUのような連合を構築すべきだと考えていた。しかし20世紀の日本は「沈没」し、歴史的交わりであるEUも「沈没」し、私たちの世界第二位のエコノミーも期待はされていない。いかにしてアメリカ強の地位を崩すのか？短期的に何か方法はあるのか？国内の消費を発展させ内需を拡大するのか？一帯一路により海外市場を開拓するのか？それとも同盟国を味方につけ新たな冷戦を始めるのか？いずれも先が見えない状況である。アメリカ・カナダ・メキシコが貿易協定を締結し、日本・中国・韓国が提携を模索するという特殊な時期において、中国とアメリカの覇権争いという言葉は相応しくはない。この戦争に関して私は、中国が失敗そして零落し、一つのエコノミーとなるが先進的とは無縁になる、もしくは中国が成功し、一定の影響を持つようになる、の二択しかあり得ないと思っている。この期間そして今後においては、私たちは歴史を忘れ、誠心誠意日本と提携を結ぶ必要があると思う。日本の最も優れているのはそのモデルであり、日本の管理モデルは世界をリードしている。一方私たちの優位性は国土、人口、簡単な構造、優れた実行力にある。

私は数学を専攻しているため、「マルコフ連鎖」の概念を引用したいと思う。未来は現在とのみ関係があり、過去とは無関係である。私たちはなぜ現在を活かし未来を勝ち取らないのか？なぜ現実に頭を悩まし、歴史の影響を受けるのか？現在の世界は変化が早く、グローバル化の波が課題に直面し、多国間主義が崩壊している。私たちは日中関係を大きく進展させ、発展とイノベーションにより人類の発展に貢献する必要がある。

大学名： 北京大学

氏 名： 李南鵬

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

「礼」は道徳レベルでは個人の内面からの自己抑制である。中国は「礼を以って国を治める」国であり、それぞれの国ごとの価値観の違いは「礼」という超我的な重点に違いをもたらしている。以下に日本のマナーについて述べてみたい。

私は、日本人の物事の処理における根本的原則は「他人に迷惑をかけない」ことだと思う。この考えから日本人の行為、即ち私たちがよく「素養」と位置付ける概念について説明することができる。なぜ日本人は常に「ありがとう」を口にするのか？他人の手助けを受けた時、「私」の心の中では他人に迷惑をかけたと思い、それにより一種の「借り」を感じる。そしてお礼の言葉はその「借り」を表現したものである。もちろんこうした感謝は各文化に共通したものであるが、日本特有の「借り」の考えには感謝よりも深い思いが含まれている。この他、使った後の箸を箸袋にしまうといった細やかな部分もまた日本人の心からの他人に迷惑をかけないという習慣である。こうした心の中に根付いた理念は外在的な規定や制約とは異なり外界の圧力を内在的な原動力とするため、私は「礼」と称するに足りると思う。

「迷惑をかけない」との基本理念を昇華させた場合、「他人を楽しませる」となる。ホームステイの際、私はホストファミリーへのプレゼント用にお菓子を準備していたが、彼らの口に合うかどうか気がかりだった。日本では一般的に贈り物を受け取った際は送り主の目の前で開封し、お礼を述べることで送り主を安心させる。同様にこうした観念は企業にも浸透しており、サービス業では「客が我が家に帰ったように感じる」ことを追求し、心温まるサービスの提供に尽力している。私の考えが浅いのかかもしれないが、ここで気になることがある。もし一方がもう一方に対しておもてなしをし、それを「受けた側」の心に多くの「借り」が生まれた場合、サービス業の立場から彼らは受けた側の借りに対してさらに借りを感じるのではないだろうか？だが双方が互いに互いのギブアンドテイクにおける最良のバランスをとるのかについては、恐らく日本人が最も精通した対処の方法があるのだろう。私は将来の生活や様々な体験においてこうした「複雑だが誠実」な感情についてより深く理解することで、日本人の論理上の「礼」とそれらの具体的な表現について読み解きたいと思う。

大学名： 北京大学

氏 名： 史喬心

テーマ： 1.国民性についての理解

今回の日本訪問では真実の、生き生きとした、そして他とは違う「日本国」を目の当たりにしたが、感想については日記ですでに記しているので、ここでは日本の国民性について自身の見解を述べたい。偏向的な部分については大目に見てほしいと思う。ここでは日本における自己抑制と感覚的な享楽とのバランスの分析を重点とする。

地下鉄や街中であれ、また日本の会社であれ、いずれも常に重苦しい雰囲気を感じられる。こうした高度な自己抑制の環境において、日本人の欲望とのバランスがどのように取られているのかは検討すべき問題である。実際に日本では義務と楽しみははっきりと区分され、心の中の欲望と抑制のバランスがとられている。

彼らは厳しい道徳規範を有しているが、感覚的な享楽に寛容である。なぜなら道徳は義務と良識にのみ関わり、享楽はこれら二つに影響しない限り、認められるべき一種の良い事柄だからである。例えば日本人は愛情を享楽とし、家庭と婚姻を義務としている。そのため男性が妻に対する義務を終えた後に、公明正大に愛人を囲ったり、芸者と遊んだりすることは、一部の伝統的観念を持つ妻としては許されるものである。これはまたセブンイレブンなどのコンビニで成人向け漫画を見かける原因ともなっている。他の地区の観念において倫理に反するこうした手法は正に日本人の家庭への責

任感と感覚的な享楽に対する区分を表している。こうした点はまた、社会が高度に秩序化、規則化し、物事を緻密に注意深くそして適切に行う日本において風俗産業が非常に発達している理由を示すものである。例えば私たちが宿泊したホテルニューオータニの向かい側には多くのホストクラブやゲイバーが立ち並び、直接路上で客引きをしていた。こうした矛盾については日本人が君子面をしているわけではなく、観念の違いによるものである。もしこの良識と享楽が対立する場合、日本人は享楽を捨て品格を重んじるのである。

日本人は肉体と精神は互いに消長する関係だとは考えておらず、反対に肉欲と精神にはそれぞれ善と悪があるため、彼らはどれか一方を追求するのではなく、精神と肉欲のそれぞれ良い部分を求めることで心の中の欲望のバランスをとっている。もちろん、人々のなすべきは義務の履行であり、生活に苦しむことではないため、彼らは困難な人生に対して早くから準備をし、すべての代償を払う決心をしている。

よってこうした理解の下、日本における様々な矛盾の状態への説明がつく。バランスは常に両極端におけるトレードオフである。

各階級の人々は現状から安心感を得、ルールを守ることが尊厳とし、それぞれ義務を担い保障を獲得している。生涯恩恵を受ける日本人は一生をかけて義務を履行し、たとえ苦しい思いをしたり犠牲を払ったりしても感謝の心で恩に報いる。服従と復讐は榮譽という共同の目標により共存し、榮譽を守ることが気高いこととしている。感覚的な享楽と自己抑制の義務は人体的にそれぞれの役割を発揮し、両極端さが天秤のバランスをとっている。

様々な両極化の状況は互いに抑制した状態で日本人の身体に共存しており、私たちはそれを矛盾と見るが、彼らは自身の内在的なバランスと自身への妥協を実現しているのである。

全体的に見て、日本民族の性格は依然として抑制の傾向にある。正に彼らの名誉や外在的な印象への強い重視により、彼らの優劣が共存した恥の文化を形成している。他人の見方を気にすることで進歩への原動力を獲得し、またそれらを過度に気にするあまり苦しみや不安を抱える、こうした態度はどこから来るのか、これは依然として検討の余地がある。しかしながら分かることは、日本民族の性格は正に彼らの愛する桜のようであり、美しい期間は短く壮烈に散るが、ひとたび花開けば非常に盛大なものを見せ、亡くなるときにも春の土に返る義務を果たす。生と死の過程において不滅の個としての尊厳を守る、これこそ日本民族の最も主だった性格である。

今回の日本訪問において、私はまたこうしたバランスはちょうど変化の真ただ中にあることに気が付いた。「花開けば蝶は自ずとやって来る」、現在の日本がこれほど多くの観光客や交流そして提携をする人々を引き付けているのは、正にその文化の香りや性格における魅力によるものではないだろうか？

大学名： 北京師範大学

氏 名： 陳心如

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

中国でこれまで幾度となく店員から冷たい対応を受けてきた私は、日本のサービス業の素晴らしさに感服させられた。日本人の細やかで敏感な神経と血液にまで浸透した「他人に迷惑をかけない」という遺伝子により、日本人は物事への対応の際に相手に迷惑や気まずい思いをさせることを最大限避けるという点をベースにしていると常を感じるが、これはサービス業に限ったことではなく、初めて目にした場所のすべてで感じられた。もし観光をするのであれば日本は理想的なリゾート地であり、加えて外国人という身分から、きっと自国人よりも寛容で親切な待遇を受けると思う。

だが日本で長期に生活しここの人々に溶け込もうとした場合は、そうではないかもしれない。私は日本への留学予定があるため、今回様々な観察の際に幅広い視点で色々な情景を想像した。ホテルや日本企業の満面の笑顔のスタッフについては信頼性を感じたが、自分ひとりでホストファミリー宅のリビングで天井を仰いだ時に感じた距離感はまた、部屋

の中の一頭の象のように私の神経を圧迫していた。

日本人はマナーの基準をとっても高く設定していることから、彼らは礼儀正しいと同時に冷淡で、心を開くと同時に壁を作り、互いに距離を縮めると同時に一定の距離を保つ。こうした矛盾と関係は理解するのが難しいが、また惹きつけられるものがある。真実は幾層もの婉曲の中で解説を待っており、やり取りの中に隠されている。そして日本人はそれを「触れ合い」と呼ぶ。

大学名： 北京師範大学

氏 名： 陳怡帆

テーマ： 4.日中間の交流

① 日中間の政治的駆け引きにおける宣伝

日中間のメディアの使用における習慣の違いは比較的大きい。中国国内では新聞やテレビから情報を得る若者は非常に少ないことから、個人メディアの時代において政府は完全な言論の独占権を有することがなくなった。情報の獲得において多くの個人メディアは政治への配慮や現在の対日政策への順応の必要がなく、日本に関連する情報を転載もしくは独自に発表しているため、民衆の日本の情報を知る手段が増え、見方も多角的になったことが、近年の中国人の日本に対する好感度を高めている要因の一つだと思う（調査データ有）。

② 日常生活における政治の氷解

民衆の生活が高度に政治化した国は正常ではない。日本では街中において右翼勢力によるスピーチなどがあつたりするが、足を止めてそれを聞く人はほとんどいない。日本ではまた中国に関するマイナスな報道がとても多いが、個人レベルではそうした政治的内容は生活において氷解される。直接触れ合うことを通じて相手を知る時、それは人と人が感情を育んでいるのである。今回の活動を通じて子どもらには国籍や肌の色などの違いにより人を判断するのではなく、自らの思いや触れ合いにより判断してほしいとのホストファザーの言葉がそれを示している。

最後に、コミュニケーション学の多くの実験において、対人コミュニケーションの影響はマスコミュニケーションよりも大きいことが証明されているため、こうした活動が今後も続いていくことを願っている。

大学名： 北京師範大学

氏 名： 金欣

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本に行く前の日本に対する印象は、清潔でマナーが良く、何をするにも手を抜かないといったものであった。

そして実際に日本を訪れ私のこうした印象は正しかったことが証明された。私たちの隣国である日本には私たちが学ぶべきものが沢山あることは間違いない。

「マナー」はすでに日本人一人ひとりに浸透しており、彼らの性格の一部となっている。こうした「程良い」マナーは他者に温かみをもたらし、人と人の関係をより友好的にまた調和のとれたものになっている。

日本人の思いやりの度合である「他人に迷惑をかけない」という考え方は私たちが学ぶべきものである。もし一人ひとりが他者のために思うことができれば、社会においてどれだけの衝突を減らすことができるだろうか？日本国民がどのようにしてこうした性格を形成したのかは分からないため、帰国の後にこの点についてさらに理解を深めたいと思う。いずれ

にしても、今回の日本訪問では日本という国についてこれまで以上の興味を持つことができた。

今回の活動で私たちは日本の有名な企業や大学と交流を図った。そのプロセスでは本当に多くの収穫が得られ、中国人と異なる日本人の仕事や学習の雰囲気を経験することができた。日本には独特の国民性があり、そうしたのも彼らの仕事や学習への姿勢に反映されていた。その中でも最も印象的だったのは彼らの責任感で、彼らは自分の持ち場ですべきことをしっかり行い、いかなることにもとても真剣に向き合い、個人的なことでグループに影響を及ぼすことはない。これもまた相手の立場に立って考えることに長けていることの表れである。

私にとっての日本は秩序やマナーがある国だが、まだ把握しきれていない部分も多いため、今後新たな発見ができることを願っている。

大学名： 北京師範大学

氏 名： 陳卓

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本に来る以前から「他人に迷惑をかけない」という考え方が日本人に浸透していることを耳にしていた。これまではこの点について狭義の「他人の邪魔をしない」、「他人を困らせない」という理解に限られていたが、今回私はこうした点は他人に充分配慮した上でのものであることを知った。私のホストファミリーを例にすると、私の到着前から様々な中国の調味料を準備し、私の好みに配慮した食事を提供してくれた。日本人のおもてなしの一つである「ゲストが最初にお風呂に入る」という点も「他者を優先する」との考え方をしっかりと表していた。

日本企業の従業員やホストファミリーとの交流では、たとえ中国に行ったことのある人でも現在の中国についての理解が乏しくまた偏っていることに気が付いた。これはまた多くの中国人についても同じことが言える。これは正に、日本を訪れると、真実の日本はメディアや書籍上のそれとは多くの違いがあることに気が付くとの横山さんの歓送会でのお話の通りであった。そのため私たちにとっては、こうした異なる部分について理解を深めていくことこそが重要になる。

大学名： 北京師範大学

氏 名： 龍炫彤

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本に来たことがなくても、日本のドラマを見たことがある人なら、日本はとてもマナーを重視する国だという印象を持っているはずである。そして日本語を学ぶ私は言葉の面からもそうした点を感じることができる。日本語における敬語はとても扱いが難しく、言葉を学ぶ者にとっては永遠の難題だと言える。敬語はその対象の違いにより、尊敬の度合いも異なり使用する場面も異なるが、「です」、「ます」といった一般的なものは日頃から幅広く使われている。日本では、他者の手助けを受けた場合、時に「すみません」という言葉で感謝を表し、同時に迷惑をかけた相手側への謝罪の気持ちも表す。これは日本の礼節における他人に迷惑をかけないという最も重要な考えを体現している。この他、日本人との対話において、彼らは頻繁に相槌を入れることで相手の話すことを真剣に聞いていることを示していることに気が付いたが、この点も私はマナーの一つだと思う。またもしゲストが自宅に泊まる場合、ホストはゲストを先にお風呂に入れるという点についてはかねてより耳にしていたが、実際にホームステイの際にそれを体験した時にはゲストである私は心理的に

重い負担を感じた。日本人は相手の気持ちを察することにとっても長けているが、これもまた他人への配慮の表れであろう。常に相手の気持ちに配慮した上で自分の行動を変える。ホームステイの際に最も多く耳にした言葉は「大丈夫ですか」で、彼らは何をしても私の意見を求め、私の同意を確認してから行動していた。この他、言いにくい願いがある時は、彼らは往々にして私の表情からそれを読み取り、自発的に私の手助けをしてくれた。

それからもう一点述べたいのは日本人の時間に対する考え方である。何をするにも彼らは前もって計画や時刻を定め、それに基づいて行動する。ホストファミリーのお兄さんやお姉さんとの外出の際にも各ポイントの時間などを整理して私と共有し、外出後は頻繁に時計に目をやり当初の予定に影響が出ないようにしていた。この点は私たちが学ぶべきだと思った。

大学名： 北京外国語大学

氏 名： 周戈

テーマ： 4.日中間の交流

充分な相互認識をベースとして両国の人々の誠実な交流を促進することは、日中友好促進を志す次世代の人々にとっての使命の一つであろう。

日本語を学ぶ私としては自然と日本の風土や人情、政治や歴史について一定の理解をしていることから、これまでずっと日本人もまた自然と一衣帯水である中国についてよく理解していると思っていた。しかしながら、実際に日本の人々と交流をして、彼らには中国を知る上での窓口がないことに気が付いた。このことから中国を知る、また中国と親しむ機会がないことから、たとえ交流ができたとしても互いの情報が対等でないことから共通点を探る機会が失われ、相違点が過度に強調されることになる。

こうした状況においては、テレビや書籍などのメディアを通じ一般人の生活に近い中国の状況を包括的に紹介することが、両国の相互認識を深める上で必要になる。

そしてこうした相互認識をベースに民間の人々が食い違いや敏感な問題を恐れず腹を割って交流することこそが、真に問題解決を後押しする方法であろう。大阪大学での交流の際、私たちはそうした問題について言及することがあったが、それによって悪影響を受けることはなく、双方はそれを機に相互理解を深め、討論を行うことができた。それは正に10月に安倍首相が中国訪問の前にツイッターで述べていた率直に本音で語り合う、というものであった。こうした姿勢こそが双方の理性的な友好交流の展開につながると言える。

大学名： 北京外国語大学

氏 名： 董林

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本のサービス業の発展ぶりは誰の目にも明らかである。その発展の理由の一つは日本民族の内面にある「利他の心理」かもしれない。「利他性」により日本人は何をするにおいても他人の気持ちに配慮している。静かなエレベーターが一日の仕事を終えた人に優れた休息の環境を提供する、会社のプリンターが故障した際に自発的に同僚に対して他のプリンターを使うようメールすることで他人の時間を節約するなどの例はたくさんある。「他人に迷惑をかけない」と

いうことは日本人の人付き合いにおける重要なルールであり、彼らの民族文化においても重要で欠かすことのできないものなのであろう。

またこうした「利他性」の影響の下、私は日本人の思いやりを強く感じることができた。今回のホームステイでは私が話に出したことをホストファザーやホストマザーがいちいち気にしてくれて、さらにこの二日間では至れり尽くせりのお世話を受けた。こうした利他的な社会はまた利己的な社会でもあり、生活において真に互いのためというものを実践できる日本人は正に私たちが学ぶべき存在である。

この他、利他性の強い日本の人々にこれまで以上に中国人と触れ合う機会が増え、民間の交流が強まれば、友好的で平等な相互認識の高まりにきっと役立つであろう。今回の日本訪問で感じたのは、中国人の日本に対する知識が不足しているのではなく、日本人の中国への認識がはるか昔で止まっているというものであった。今回の活動において私は頻繁に「河南省は田舎なのか都会なのか?」、「中国人は結婚した後に夫の姓を名乗るのか?」といった回答に困る質問を受けた。私は日中の民間交流がこれまで以上に強まることを心より願っている。これこそ「国の交わりは民の親しきにあり」における正しい方法だからである。

大学名： 北京外国語大学

氏 名： 劉娜

テーマ： 2.集団帰属意識の強さ

3.マナーのよさと思いやり

中国はかねてより「礼儀の国」と呼ばれ、日本は早くから中国の礼節に学びさらにそれを発展させ今日まで受け継いでいる。今回の日本訪問において最も印象的だったのは日本人のマナーの良さと思いやりであった。

ホテルのゲートではスタッフが常に穏やかな笑顔で「いらっしゃいませ」と声をかけ、エレベーターに乗る際自分が乗るのが遅れて他人を待たせたときはすみませんと謝り、たとえ見知らぬ他人同士でも互いに会釈と挨拶をするなど、日本という民族そして国民は心に他者を尊重するという精神を有しており、他者に非常に礼儀正しい。この点は私たちが学ぶべきものだと思う。この他、日本人はまた他者の気持ちをとても気かけ、他者の立場に立って考える。エレベーターや電車では日本人はほとんど静かで、大声で話したり騒いだりすることはない。なぜなら大声で騒ぐことは他者に迷惑をかけると考えているからである。私は自分の実体験を思い起こした。箱根温泉のホテルでの朝食の際、温泉卵が有名だと聞いていたので食べてみようと思い、殻を割ろうとテーブルに軽く打ち付けたがまったく割れなかったので、少し力を入れて打ち付けたところ思いがけず半熟状態の黄身がテーブルと地面にこぼれてしまった。これに恥ずかしく思った私はすぐにテーブルの上の汚れをティッシュで拭き取り、それから地面の汚れを拭き取ろうとしたところスタッフが通りかかったため、私は慌てて謝った。するとそのスタッフは「大丈夫です」と言い、さらに私の服が汚れていないかを確認し、すぐさまハンカチを取り出し地面の汚れを拭き取ってくれた。その時私は、日本人は本当に他人を思いやっていると思った。もし私たち一人ひとりがこのように他人を思いやり、他人の気持ちを考え、素早く気まずさを解消できれば、この社会はより素晴らしいものになるだろう。

大学名： 北京外国語大学

氏 名： 徐浩天

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

私は「マナー」と「思いやり」の二つの面から述べてみたい。まずはマナーについて私が最も印象深かったのは、各所の見学を終えた後に、決まってガイドの中島さんが私たちに「ガラス拭き」、つまり窓越しに手を振り見送りの人々へお別れをさせていたことである。ガラス拭きは元気よくさらに様々な方向に向けて相手の姿が見えなくなるまでやり、車の進行方向が変わった場合はまた方向を変えて続ける必要がある。しかもこうしたマナーは一つの企業だけでなく、すべての企業が行っていた。こうした点は一部の中国人的には面倒もしくは形式主義だと感じるものだが、私は内容が完全には理解されていない段階においては、形式も内容と同様の重要性を担っていると思う。歓送会を終え私たちが空港に向かう時を例にすると、各ホストファミリーが強い日差しの中私たちがバスに乗り込むのを見届け、手を振ってお別れをする、また中には私たちがホテルを離れた後も道路まで走ってきてお別れをする人もいた。その瞬間私の涙はあふれ出そうになった。正に彼らの細やかなマナーから私は彼らの真心を感じたからこそ、私たちは一瞬で心が通じ合い、わずか8日間で築き上げた友情を輝かせているのだと思った。

「思いやり」の面で最も印象深かったのは、至る所で見かけた点字であった。私が思うに、一国の文明の発達度合はその国の少数派や弱者への向き合い方と措置からある程度知ることができる。日本は「身体の不自由な方」へのサポートを極限まで行っていると言える。すべての人々が利便性を感じ楽しく生活でき、いかなる差別も受けない国をいかにして作るのか、これは私たち次世代の人間が考えていかなければならない問題である。

大学名： 北京外国語大学

氏 名： 周彩

テーマ： 5.アニメなどのソフトパワー

かねてから我が国ではソフトパワーを向上するという目標を立ち上げているが、ソフトパワーとは何か、今回の日本訪問を通じて私はその答えを見た思いがした。

Panasonic 社への訪問の際、私は同社の伝統文化への重視というものを強く感じた。Panasonic の製品開発では日本の伝統工芸をデザインに組み入れ、その技法によりビジネスを開拓し、伝統工芸により大きな発展の場を提供することで伝統工芸を守ると同時に、人々そして世界により快適な生活をもたらしている。人々に伝統工芸の価値を感じてもらうことで、伝統工芸は現代社会において消滅することなく時代と共に発展していくことができる。

ワコールは主に女性用のインナーウェアを開発する企業だが、近年では新たに民宿事業も行っている。この民宿事業はワコール社が京都の古い建屋をリフォームして行っている。これらの建屋は京都に古くからあるもので、古い建屋は普段の生活には不便になっているが住民の多くはリフォーム資金がなく、たとえリフォームしても京都の古都としての文化的佇まいを損なう可能性がある。そのためワコール社の民宿事業はこうした古い建築物に新たな活力をもたらしている。

中国でも実際のところ多くの伝統的なものが厳しい状況に瀕している。ソフトパワーというのはとても現実味のない幅広い言葉であり、それは実際に文化・精神面に具現化されたものであるべきだと私は思う。日本のものづくり精神はどのように受け継がれているのか、日本はなぜ常に清潔でクリーンな印象を与えるのか、日本の和菓子はなぜ皆が空港の免税店で競って買い求めるのか、これら一つひとつの問題について考える時、私はソフトパワーについてより多くの理解や感想が得られた。

ソフトパワーとは文化や精神そのものだけではなく、経済とも密接に関係し、巨大な経済効果をもたらし、国のイメージさらには人々の精神的拠り所にも関わる、形が感じられるものである。こうした面についていかに隣国から学ぶかは、私たちが今後考えて実行に移すべきものである。

大学名： 中国農業大学

氏 名： 康慧薇

テーマ： 1.国民性についての理解

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

農業学校の学生である私は、最も基本的なものである食物の面から今回の訪日での体験や収穫について述べてみたい。

日本人は食物を大切にしている。私たちの今回の活動における食事の多くはビュッフェスタイルであったが、多くの日本人は自分が食べられる分だけを取り、食事を終えた際には皿はきれいで、付け合せも残さず食べきっていた。一方中国については、私のホストファミリーから「中国人は食事の際に少し残すのがマナーなのか？」との質問があったが、私はその時何と答えていいか分からなかった。私たちはこれまで以上に食物を大切に、残さず食べることはできないだろうか？

資源の利用という点については食物だけでなく、日本企業の発展戦略などにおいても見て取ることができる。利他の心、集団意識は日本人に深く浸透しており、こうした集団意識は環境保護のみならず伝統文化やヒューマンケアの面にも示されている。今回の見学では伝統文化を融合させ設計を行うパナソニックであれ、女性の美を愛する心と呼び覚ますワコール、また環境や公益を重視する伊藤忠商事、資源の循環利用を実現しているホテルニューオータニ、プラットフォームのサービス料金のみを徴収する非営利の民間組織 JA 全農であれ、いずれも日本人の社会的責任感を示していた。他人に迷惑をかけない、他人の邪魔をしない、他人や社会を思いやる、これらはなぜ日本人の文化がこれほど特別なのかを示している部分かもしれない。またこうした点は中国人として高めることを望んでいる部分でもある。人民に奉仕するというこの言葉はより具体的なものに落とし込むことができると同時に、小さなものでは一つのごみから大きなものでは政治思想といったガイドラインに拡大することもできる。いずれにしても、私はこの言葉がより実際により深く私たちの心に刻まれることを願っている。

大学名： 中国農業大学

氏 名： 李雨濃

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本は礼儀の国であり、その国民もまた他人を思いやることに長けており、こうした文化は日常の様々な部分に浸透している。公共の場所では大声で話をしない、進んで左側を歩く、思いがけず他人とぶつかってしまった際は進んで謝る等の多くのことを通じて私は他人からの善意と温かさを感じた。

「朱に交われば赤くなり墨に交われば黒くなる」。こうしたマクロ環境において人々は意識的に道徳ルールを守り、無意識に他人を思いやり相手の立場に立って物事を考え「自分がして欲しくないと思うことは、他人にもすべきでない」という考えを持つようになる。これにより人と人との対立が大きく減り、調和のとれた関わり合いが生まれている。人は皆敏感な神経と本質的な善良さを持っており、私たちが微笑みと思いやりで他人と向き合った際、私たちもそれと同様の扱いを受けるのである。

印象的だったのは、企業見学や大学訪問そしてホームステイのいずれにおいても、お別れの際には彼らは私たちの姿が見えなくなるまで手を振ってお別れをしてくれたことであつた。私の印象では礼儀は人と人の距離感を遠ざけるもので、一種の疎遠という「遠慮」が存在するが、彼らの礼儀はバランスが良く、人に温もりや感動を与えるもので、この点に私は改めて多くを考えさせられた。

人に距離感を感じさせやすいのは、絶えず礼儀で他人に接し、それを自分の任務もしくは義務とする「建前」である。

日本人の人への接し方は自らの真心をマナーの中に込めており、その満ち溢れたそして真摯な感情は温かなものである。

この土地を訪れて初めて日本の本当の姿を目にすることができた。日本は美しく品がある存在であり、また友好的な姿で私たちの前に現れた。

大学名： 中国農業大学

氏 名： 王新宇

テーマ： 4.日中間の交流

日中間の交流についてまず私が考えたのは学生間の交流である。今回の訪日活動では大阪大学と東京大学の学生らと交流した。交流方法は主に一つのテーマについて討論をし、それぞれの意見を述べ合い総括と発表をするというもので、その過程では討論を通じて初めて発見した問題もあった。

大阪大学や東京大学の学生はいずれも英語のレベルが高く、グローバルで多元的な能力を持っていたが、対して私自身の能力不足を認識することができた。だが比較を通じてこそ違いに気づき、努力をしていくことができるのである。

しかしこれは一つの面にすぎない。全体的に日本に留学に訪れる中国人学生はとて多いが、中国に留学に訪れる日本人学生はとて少なく、両者は比較にならない。そのため私たちは日中の学生交流強化の決定を目にし、「3万人規模の日中の大学生交流」の事業について知ることができた。これは両国の努力の結果である。

一方、私たちはまた日中交流は実際のところ学生レベルに限らないことを知っている。企業間の従業員の異動や民間の各種交流もまたそうである。私たちが訪問した企業内の中国人従業員から聞いた話では、こうした交流自体は自分自身と向き合い、比較することができる一種の貴重な経験であるとのことで、私もそのようにすべきだと感じた。交流、認識そして理解を強化することが日中交流における中核である。これらを通じてこそ互いへの認識がより幅広くなり、自分自身の未熟な部分を知った上で調整や改善をすることで絶えず成長することにつながると思う。

大学名： 中国農業大学

氏 名： 王添

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本は一度来たら離れたくない国であり、私は懐かしさや名残惜しさから涙ながらに東京を離れた。なぜなら日本では心からのおもてなしを受けたからである。日本はどのようにしてこのようなおもてなしを実現しているのか？細やかながらも煩わしくないマナー、思いやりがありつつも悩ましくない他人への配慮がその要因である。

私は礼儀の国から日本を訪れたが、至る所でより細やかな礼儀を感じた。警備員、運転手またはサービススタッフであれ、利益のために行う形式的なものではなく、いずれも他人に心からの思いやりを感じさせることができることを私は初めて知った。一つの場所を離れる際に私たちに長々とお辞儀をし、姿が見えなくなるまで手を振る、サービススタッフや従業員を見かけた際に会釈と挨拶をする、日本のマナーについては驚かされるばかりであった。だが今では私もそうしたことに慣れ、感謝の気持ちで人々そして世界と向き合っている。

私の浅い知識ではこうした現象が生まれた原因については分からないが、こうした社会は温かく、秩序があることは分かる。一つの個体である私たちは自らを他人の立場に立たせ相手の気持ちを理解してこそ、相手を心地良くさせることができる。私たちは幼い頃からマナーの意識や人との接し方を育成し、それにより周囲の人々を感化させていく必要が

ある。なぜなら人はそうした雰囲気の影響を受けやすいからである。私たちが些細な部分や小さな事から感謝の心で他人に接することができれば、この世界もきっと温かいものとなり、人と人の距離もより近づく。互いに信頼し合ってこそ私たちは健全な社会を構築することができるのである。

私たちは日本経済の発展ぶりに驚くかもしれないが、注意すべきは正に彼らのマナーが国の優れた発展を推し進める一助となっているということである。

大学名： 中国農業大学

氏 名： 林百欣

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本人のマナーについては、私たちはおおかた耳にしている。日本人は礼儀正しく、他人に迷惑をかけない。しかし書籍の話だけではぼんやりとした概念でしかなく、実際に体験してこそ彼らのマナーがどれほど感動的で感心させられるものであるかを知ることができる。

まず彼らは、顔を合わせたまたは退社もしくは偶然出くわした際には常に挨拶をする。そして彼らは「こんにちは」、「ありがとう」、「すみません」といった言葉を常日頃から述べる。日本を訪れた当初はこうしたことに慣れていなかったが、慣れるに従い私も一緒に挨拶をするようになった。こうした雰囲気の中では人間の行為や考え方は良い意味で影響を受けやすい。さらに彼らの思いやりについては、ホームステイの折に私たちが外出した際、ある中国人の女の子から道を聞かれた英作さんはどこで下車をするのかを教えたが、しばらくしてその女の子がしっかりと理解したのか気になった英作さんはわざわざ彼女を追いかけ道順を教えたのである。こうした細やかな部分に私はとても感銘を受けた。道を教えるといった些細な事でも最善を尽くす、これこそ日本人の人との接し方である。それから今回訪問した先々では見学を終えその場を離れる際は、従業員の皆さんが私たちを見送り、手を振りお別れをしてくれた。時にそれは数分間にわたり、雨の日でもそれは変わらなかった。初め私は少し大袈裟だと思ったが、8 日間の過ごし、最後にホストファミリーや横山さんそして中島さんとお別れの際には、私たちは涙しながら手を振りお別れをした。彼らの真心は私たちの心を打つもので、こうした点も日本人特有の温かさと優しさである。

それから日中間の交流について述べる。両国の付き合いは密接であり、貿易、企業、科学教育、民衆の間を問わず互いに依存している。私のホストファミリー曰く、私は彼らが招く 7 人目の中国人学生とのことで、この点からも日本の人々の中国への友好感情が見て取れる。私たちは今回の訪問を通じて学び、見てそして感じた事を中国の友人や家族にも伝えていきたいと思う。

大学名： 北京科技大学

氏 名： 趙紓羽

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

かつて私は日本の多くの習慣やマナーについて不必要または度が過ぎると思っていたが、今日ではそうしたものについて私はその必要性を十分に理解することができる。

サービススタッフへの感謝、他人へのマナー、会社内でのルール、こうしたとても行き届いたまた「面倒」なマナーは

私が思うに他人の労働への尊重だけでなく、自身を心地良くし、幸福感を高めるものであり、長い期間これらが続けてきた社会は当然のように文明的で調和がとれている。

他人に迷惑をかけないことは日本人の心に根付いた信条である。例えば使用後の箸を箸袋にしまうという行為は、面倒に聞こえるし、また他人の手を煩わせるものであるが、ある日私がサービススタッフに皿を渡す際に箸がスタッフの手に触れたことがあり、その時になって私は初めて箸を箸袋にしまうことの意味を理解することができた。

物事の表面だけを見ていてはその由来を発見したり理解したりすることはできない。私は自分の安易に結論を下す習慣を見直すべきかもしれない。真にこの社会を分析するには、その中に入り込むことが最良の方法である。

大学名： 北京科技大学

氏 名： 李逸軒

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

私たち漢民族にはかねてより「礼儀の国」との呼び名があるが、今回の日本訪問において私は礼儀を極限まで高めた大和民族の姿を目にした。

日本訪問以前、私はアニメや映画そしてメディアなどを通じて日本の驚くべきマナーの周到さについてある程度の理解をしていた。だが日本を訪れ、現実の日本のマナーはかつて耳にしていたよりもさらに優れていたことに気が付いた。日本での一週間余りの期間において私が最も多く耳にしたのは「ありがとう」という言葉で、他者にどのようなサポートをしようとも、日本では多くの人々が小さな恩を大きな恩として報いる。また、他人同士の挨拶や譲り合いなどについても、私はとても心地良く友好的なものを感じた。

この他、日本では路上でクラクションの音を聴くことはほとんどない。皆は交通ルールを順守しており、都市の交通体系も整然と運営されている。地下鉄車内では話をする人も少なく、各自が自分のすべきことをしている。日本人がとある待合室に何百人といっても目を閉じると誰もいないように感じるとの話を私は耳にしたことがある。このことから、日本人のマナーや思いやりの行為は各自が守るべきルールであることが分かる。

最後に、日本人の見送りには心が温かくなった。お辞儀をした後必ず視界から消えるまで手を振ってお別れをする。日本人のマナーには私たちが学ぶべき点がまだたくさんあり、私たち大学生はこうした風習を持ち帰り自ら行うことで周りに広めるべきである。

大学名： 北京科技大学

氏 名： 劉伊迪

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

日本国民のマナーの良さについては世界中の人が多少なりとも知っていると思う。しかし百聞は一見に如かず、私はこの土地を訪れ日本人と交流をして初めてより確かな実感が得られた。まず初めに日本人は他人との交流において「相手の立場に立って考慮する」ことを優先していると感じた。例えば、三菱 UFJ 銀行の見学における、「プリンターが故障した」後の日本人従業員の処理方法を通じて、私たちは日本人が他人への思いやりを優先していることを知ることができる。また日本では、何かと頻繁に「ありがとう」、「すみません」等の言葉を耳にする。さらに日本人はとてもマナーに気を配っており、エレベーターではたとえ見知らぬ人であっても笑顔で会釈をする。

日本の国民性についての理解に関して、私はいくつかの点を知ることができた。第一に、日本人はあらゆる事物に畏敬の念を持っている。彼らは万物には魂が存在していると信じているため、尊敬の心を持ち、自然を守り、生態環境の保護に気を配っている。第二に、日本人の生活は洗練されており、ディテールに気を配る儀式のような感覚が存在する。ホームステイ時の食事の際、並べられた食器などはとても美しく、箸置きまでもあった。そして彼らの勤務時の制服もとてもきちんとしていて、活力が感じられた。

以上が私のささやかな見解である。将来的に日本という国について改めて理解を深める機会があることを願っている。

大学名： 北京科技大学

氏 名： 劉哲

テーマ： 2. 集団帰属意識の強さ

3. マナーのよさと思いやり

6. 今後ますます中国でニーズが高まる技術

1. 企業は国の経済における命綱であり、日本企業が示す強大な企業理念や従業員間の団結力には感心させられた。
日本企業は企業理念をとて強調しており、パナソニックの「A Better Life, A Better World」や伊藤忠商事の「ひとりの商人、無数の使命」からは従業員の他人を利する心、国を利する心とは何かを知ることができた。そして企業が信頼や理解を強調することから、私は日本企業の従業員の団結力の源を見た思いがした。
2. 日本の人々に対する第一印象は、とても礼儀正しく友好的というものであった。JAL 日本航空から始まったすべての日程において、サービススタッフは皆親切で行き届いたサービスを提供していた。また日本の人々はエレベーター内で会ったり、朝に会ったりすると互いに挨拶もしくは会釈をする。こうしたマナーや調和もまた日本を国民の摩擦度合（矛盾や衝突の発生日合）の最も小さい国としている。
3. ホテルニューオータニのエコ施設の見学では、同ホテルのごみ処理技術に感心させられた。ホテル内部においてごみは 81% のリサイクル率に達しており、同ホテルのごみの分類回収処理技術は私たちが学ぶべきものである。また日本にこうした環境保全分野の先進的技術を学ぶことでしか、中国のスモッグ対策や青空防衛計画はやり遂げることができないと思う。

大学名： 北京科技大学

氏 名： 張凱集

テーマ： 3. マナーのよさと思いやり

4. 日中間の交流

6. 今後ますます中国でニーズが高まる技術

ホームステイの 2 日間、ホストファミリーは私を色々な所に連れて行ってくれた。その中で最も印象的だったのは、スカイツリーで写真撮影を手伝ってくれたお姉さんであった。と言うのも、その写真は撮影の後に気に入れば買い取ることができ、さらに無料で自身のスマホで写真を 1 枚撮ることができる。撮影担当のお姉さんは無料の撮影でもとても親切で、うまく撮れなかった際は自発的に「one more」と言って撮り直した。また現像担当のお姉さんとても優しく、有料の写真が要らない場合でも丁寧に写真を片付けて感謝の言葉を述べた。こういった場合、中国においてもサービス態度の良いスタッフはもちろんいるが、冷たい態度をとる人の方が多いと感じる。だが日本に来てから出会ったすべてのサービス

スタッフはとても親切で礼儀正しく、意思疎通が不便な場合でも英語で丁寧にわかるまで繰り返し説明してくれた。

ホストファザーやホストマザー、懇親会での同年代の若者や伊藤忠商事の従業員との交流では、日中における多くの共通点と相違点を発見した。東京の若者も私たち北京や上海の若者と同様に高い家賃や生活のプレッシャーを抱えており、仕事を頑張らなければ良い暮らしをすることができない。また日本の大学生は、実家が学校から近くても学校近くに部屋を借り、親と同居することはない。一方中国では卒業した多くの学生は両親と同居している。中国のスモッグに関しては、日本にも以前は存在していたが、森林カバー率の向上や環境保護意識の強化により、現在では日本は空気がさわやかで、また清潔な社会を構築している。この点については中国が学ぶべき素晴らしい模範である。

大学名： 北京林業大学

氏 名： 楊騰紫

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

我が国はかねてより「礼儀の国」を自称しており、礼儀を重んじる、礼節にこだわる、自分の考えで人のことを推し量る、相手の立場で考える、これらは我が国が古くから重視してきたことである。日本は古代に中国から学ぶ過程においても「いいとこ取り主義」の原則を守り、多くの中国の礼儀を学びそれを改良した。これには「礼儀の国」の「無冠の帝王」の誉れが非常に感じられる。私は日本についてとても「静か」な印象を受けた。路上では車が通りすぎる音だけでクラクションの音は聴こえない。たとえ夕方のピーク時で道路が渋滞していても、クラクションの「苛立ち」の音は聴こえない。日本人のマナーは、顔を合わせた際の挨拶から失礼があった際の謝罪、「静か」な道路から丁寧なサービス、食前の「いただきます」から食後の「ごちそうさまでした」など日本社会の様々な部分に浸透している。日本語には「おもてなし」という言葉があるが、これは他人を思いやり、相手の立場で考えるという概念からきている。日本人は幼い頃から「他人に迷惑をかけない」よう教育されている。日本語の敬語には独特な文法があり、すべての人が最も頻繁に使う言葉には「ありがとう」、「すみません」といったものがある。日本人に比べ中国人は無頓着であり、話し声は大きく、大雑把である。中国人から見た日本人は事務的でユーモアがなく、しきたりに束縛された人々である。しかし日本人は非常に自律的で、煩雑なマナーを守る一方熱い心も持っている。しかもそうした日本人だが、とある場所では中国人に負けないほどうるさくなる。昼間はスーツに身を包み上品で礼儀正しい彼らが、居酒屋では大声で笑いお酒を飲むなど、気兼ねする様子が全くなくなる。日本人はこのように「落ち着く」こともできれば「情熱を持つ」こともできる民族であり、とてもユニークだと感じた。「礼儀の国」の中国の若者である私たちは日本人ほど自分を厳しく抑制することはないが、基本的なマナーについては身に付けるべきだと思う。

大学名： 北京林業大学

氏 名： 劉禹辰

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

今回の訪日では多くを考えさせられたが、その中でもいくつかの些細な点が私にとって印象的であった。企業見学の際にはテーブルに飲み水やプレゼントがきれいに並べてあった。初めはそれらのペンや文房具などは私たちに貸してい

るもので、持ち出してはならないと思っていた。しかし中島さんからそれらをもらわないのは失礼になるとの話があった。これは私の当初の理解とまったく異なっていた。

しかしそれはなぜであろうか？相手の立場に立った思いやりなのだろうか？恐らくそうだと思う。もし相手がわざわざ準備したプレゼントを私がテーブルに置いたままだとすれば、それはプレゼントを気に入らなかったことを意味する。それはとても失礼になる。

また私は「お返しの礼をする」、「皆を客人とする」との心理が関係していると思う。ホストである企業がささやかな気持ちを示したからには、私たちはそれを喜んで受け取り感謝の意を示すべきである。

この他、私たち訪日団を迎え入れてくれた各企業はとても細やかなスケジュールを作り、また資料やプレゼントなどを準備してくれた。今回お世話になったすべての企業から真摯な姿勢を感じることができた。彼らにとっても感謝している。日本企業がこうした姿勢を継続し、改めて日本の製造業が黄金時代を迎えることを願っている。

大学名： 北京林業大学

氏 名： 冷和華

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

この数日間見学をした企業では、すべての持ち場で働くスタッフが仕事に対してひたむきで積極性があり、たとえ方向を指し示すような仕事であれ情熱をもって行っていた。またいずれの会社の受付担当者も笑顔で出迎えや見送りの挨拶をしていた。これは一種の業務態度であるだけでなく、他人への尊重の表れである。こうした人と人が互いに尊重するという基礎の上に作られた国というものは必ず調和がとれ安定している。

日本人の他人への接し方は職場以外に日常生活においても表れている。今回日本で私は何度か道を尋ねたが、皆さんとても親切で私が理解しやすいよう身振り手振りを交えて教えてくれて、嫌な顔をする人は誰一人いなかった。中には自転車に乗ったおじいさんやイヤリングをたくさんつけた若者などが自発的に「大丈夫ですか？」、「何かお探ですか？」と尋ねてくるなど、皆優しく礼儀正しかった。これには日本の社会全体に浸透しているヒューマンケアの精神に感心せざるを得なかった。マナーがあり互いに尊重しあい、相手を思いやる、日本の精神文明構築は本当に成功している。良い文明の構築は人々の幸福な生活や社会の安定を保証するものである。

大学名： 北京林業大学

氏 名： 靳松

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

私は日本語を専攻していることから、日本人が「礼儀正しい」ことについてはかねてより多少知っていた。しかし日本に来てからどれほど「礼儀正しい」のか、「思いやり」とは何か、「お持て成し」とは何かを知ることができた。①日本の点字や視覚障害者誘導用道路の普及度合は中国よりはるかに高く、至る所で点字が使われ、視覚障害者誘導用道路もしっかりとした整備また利用がされていた。②他人（特にサービス業）が商品を渡す際には常に正面の部分の私に向けて渡してくれた。ホテルのフロント、原宿のお店のレジ、池袋のお店のレジなどすべてがそうであった。彼らは自分の都合を考えるのではなく、自分がどのようにしたら相手にとって便利なのかを考えている。③トイレではその大きさを問わずいずれも車いす利用者用のトイレが設置されていた。この他、赤ちゃん用のスペースも見かけた。④他人とお別れをする際には相手を見送り、姿が見えなくなるまで手を振る。訪日6日目に私は東京大学の辻さんと会った。そしてお別

れの際に私は階段を下りて行ったが、振り返ると辻さんはその場を離れることなく私を見送ってくれていた。その瞬間私はとても感動した。⑤他人のプライバシーを尊重する、他人への配慮が程良い。ある問題について答えたくなければ相手も聞いてこない。⑥日本の空港には「Welcome to Japan、お帰りなさい」との表示があり、英語は外国人に向けたもので、日本語は日本人に向けたものである。こうしたものには誰であれ心が温かくなるであろう。

生活のあらゆる面で日本人は究極を求めている。そのため、マナーや思いやりにおいても日本人は素晴らしく、常に相手の立場で物事を考え、己のみならず相手の利便性を重視している。これは正に私たちが学ぶべきものである。

大学名： 北京林業大学

氏 名： 王韻玉

テーマ：1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

日本はその礼儀の国の名称とサービス業のレベルの高さで世界に名を馳せていることは周知のとおりである。今回日本を訪れ、私は日本人のマナーや思いやりの面での一連の取り組みを実際に目にすることができた。

まず初めに点字や視覚障害者誘導用道路が至る所にあり、飛行機を降りた直後のトイレからバスを待つ狭い通路、ひいては青信号の際に音が鳴る信号灯まで、特殊な人々の外出における不便を減らすための様々な工夫を目にすることができた。日本の視覚障害者誘導用道路のカバー率の高さに私は非常に驚かされ、「身体の不自由な人でも手助けを必要とせず自由そして安全に健常者のように外出できる」環境を構築しているという印象を受けた。

次にレストラン内でずらして並べられた座席、会社内の個人用事務スペースなどは、一人でいることを好み、邪魔されることを好まない人への利便性を大きく高めている。これは細やかな配慮というだけでなく、多様性に対するまたマイナー向けの一種の理解であると思う。

周到的な礼儀については、企業見学の際の接待担当の従業員抜きには語れない。彼らは常に快適さを感じる距離感で見学ルート上に現れ、道案内をしたり皆からの質問に答えたりしていた。こうした周到さは他人を充分思いやった成果である。

もちろん日本が自身の礼儀をこれほどまでに高められた理由は、彼らの持つ「恥の文化」を代表とする国民性とは切り離すことができない。そのため私たちが日本にこうした点を学ぶ際は、そのまま真似てはだめで、私たち自身の特性や問題点を模索し、方向性を持って学ぶ必要がある。

視察・交流先、行事



JAL整備工場:制服体験エリアで、大学生から、JALクルーに、瞬間に変身。



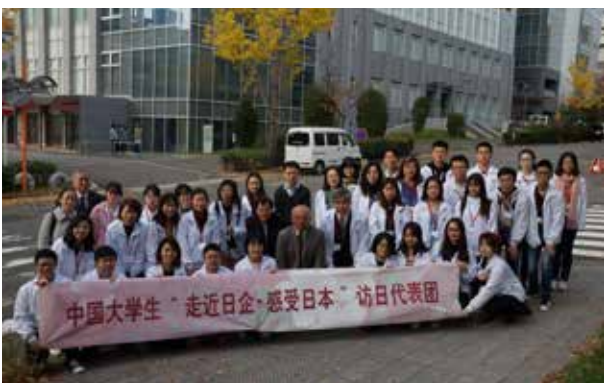
JAL整備工場:広大な格納庫内の巨大な機体、高揚感に包まれたところで、一枚。



Panasonic Design Kyoto:五感に訴える未来型家電の前で、長谷川主幹(右)の説明を聴く、左は、松下(中国)の王氏。



Panasonic Design Kyoto:グループワーク、テーマは、「弁当」、各校とも発想が豊かで、充実した時間を過ごしました。



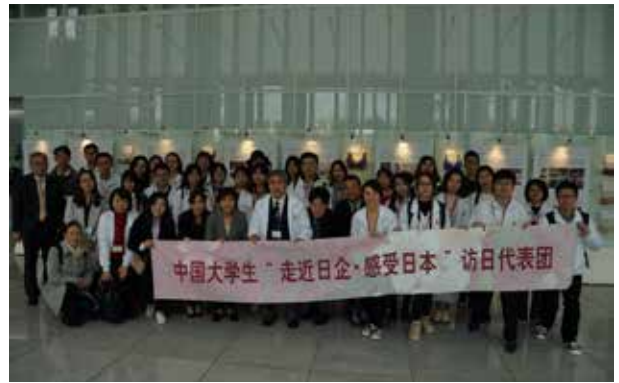
大阪大学:小溝名誉教授を囲んで記念撮影、向かって右が関団長、左が坂野上特任准教授。



大阪大学:世界トップレベル国際研究拠点の免疫学フロンティア研究センターを見学しました。



ワコール: 廣岡部長から創業者・歴史・理念などの説明を聴く。右は王楠女史。



ワコール: 1階サロン展示物の前で、社員の皆様と一緒に、記念撮影



京都観光: 東福寺 紅葉のトンネルを散策する、日本人の美感と季節感に近づきました。



新幹線: 京都観光を終え、京都から小田原まで「ひかり」号で移動しました。



箱根観光: 宴会 出し物のダンス、前列のキレイのある手足の動きと、後列の緩慢な左右の往復が笑いを誘いました。



JA全農: 営農・技術センター 佐藤主席技術主管の講話に、学生が集まる。



JA全農:屋外で、和泉女史の説明にも、質問が集中しました。



伊藤忠商事:寺澤マネージャーの会社紹介に清聴。「ひとりの商人、無数の使命」には、心を揺さぶられました。



伊藤忠商事:交流会にて、小関専務執行役員から、中国語で、歓迎のご挨拶。中国人材精鋭30名も集合し、盛会でした。



三菱UFJ銀行:原室長の歓迎の辞に続く、会社紹介、中国戦略を拝聴。



三菱UFJ銀行:活発な質疑応答が終わり、会議室で記念撮影。



日比谷松本楼:小坂社長から、孫文と梅屋庄吉の交友史を伺う、初耳の学生が多く、大いに感銘を受ける。



中国大使館：律桂軍公使参事官の講話を拝聴する



中国大使館：律公使参事官を中心に記念撮影、右端が付博二等書記官



東京大学：安田講堂前にて、関団長に向かって右が長谷川教授、左が平野教授、正門から講堂まで一面、黄金色の銀杏の葉で一杯でした。



東京大学：長谷川教授のご案内で小柴先生・梶田先生が寄贈したノーベル物理学賞のメダルと賞状を見る。感動で、どっと歓声が上がりました。



ホテルニューオータニ：ホテルから出る生ゴミは、100％ホテル内で、堆肥化されます。三浦課長の説明を受ける。



歓送会：前列 伊澤理事長の左が、大使夫人汪婉参事官、吉田浄氏。右が関団長。

ホームステイ



北京大学: 飼い犬が、慣つてくれたところで、一家全員で一枚。



北京師範大学: お昼 温かい天井を前にして、姿勢を正して、まぜ一枚。



北京外国語大学: 教えられた通りに、たこ焼を作ってみる、二本の串を器用に使う。



中国農業大学: パワースポットで有名な根津神社の千本鳥居を通過、邪気祓いを済ませる。



北京科技大学: (ホームステイ写真の提出なし) 今夜は、箱根温泉で、休息。 全員 自然に笑みがこぼれます。



北京林業大学: カメラが向けられたので、鯛焼きをさつと食べて、ポーズをとりました。